

- (1) 正解②:先生は、つづりを間違えた何人かの生徒に、放課後残るように言った。

[解説]この問題は人を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は some students「何人かの生徒」で人を表し、後ろの made mistakes in their spelling には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 who を用い、②が正解です。① which は物、③ whom は目的格、④ whose は所有格なので適しません。人+who+動詞という主格の基本構造を確実に押さえておきましょう。

- (2) 正解③:向こうで話している人たちを知っていますか。

[解説]この問題は人を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は the people「人々」で、後ろの are talking over there には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 who を用い、③が正解です。① they を入れると主節と関係詞節を結ぶ語がなく、② which は物、④ whom は目的格なので適しません。関係詞の直後に動詞が続く場合は、まず主格を疑いましょう。

- (3) 正解②:あれがそれをやった男だった。

[解説]この問題は人を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は the man「その男」で、後ろの did it には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 who を用い、②が正解です。① as はこの形では用いず、③ whom は目的格、④ whose は所有格なので適しません。the man who did it のように、who 自体が関係詞節の主語になる形を確認してお

きましょう。

- (4) 正解②:私たちをそこへ案内してくれたガイドは、わずか 10 歳だった。

[解説]この問題は主格の関係代名詞と動詞の目的語を含む文構造を問う問題です。先行詞は The guide で、who took us there「私たちをそこへ連れて行った」がこれを修飾するため、②が正解です。take は take + 人 + 場所 の形を取り、①は目的語 us が欠けています。③は who がなく 2 つの節を結ばず、④は関係詞がないため不適切です。関係詞節内部の文型まで確認しましょう。

- (5) 正解①:私たちは、19 世紀の産業革命に匹敵するもう一つの革命に近づきつつある。

[解説]この問題は物を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は another revolution「もう一つの革命」で物を表し、後ろの will rival ~ には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 which を用い、①が正解です。② what は先行詞を含む関係代名詞、③ who は人、④ it は接続機能を持たないため使えません。物+which+動詞という基本構造を確認しましょう。

- (6) 正解①:「なぜバスが遅れているのですか」「丘を猛スピードで下ってきた車に衝突したのです。」

[解説]この問題は物を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は a car「車」で物を表し、後ろの came speeding down the hill には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 which を用い、①が正解です。② who は人、③ what は先行

詞を含むため a car と併用できず、
④ whose は所有格なので適しません。先行詞が物なら which / that が主格として用いられます。

- (7) 正解①:5 エーカーの土地が、何年後まで建設されない建物のために確保された。

[解説]この問題は物を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は the building「その建物」で、後ろの would not be constructed ～ には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 which を用い、①が正解です。② by which、③ of which は不要な前置詞を伴い、④ where は関係副詞なので節内の主語にはなれません。which＝関係詞節内の主語であることを見抜きましょう。

- (8) 正解①:彼女は、水牛さえ殺せそうなほど鋭い視線を彼に投げかけた。

[解説]この問題は物を先行詞とする主格の関係代名詞を問う問題です。先行詞は glances「視線」で物を表し、後ろの could have killed a buffalo には主語が欠けているため、主格の関係代名詞 which を用い、①が正解です。② when は時を表す関係副詞、③ who と④ whom は人を先行詞とするため適しません。先行詞が物で、後続節に主語が欠けていれば which が基本です。

- (9) 正解①:シェイクスピアの美しい詩を読んだことのある人なら、誰がその魅力を忘れられるだろうか。

[解説]この問題は先行詞が疑問代名詞 Who の場合の関係代名詞を問う問題です。Who that ～? の形では、

先行詞 Who との重複を避けるため、関係代名詞には that を用いるのが原則で、①が正解です。② which は物、④ whom は目的格であり、③ who とすると Who who ～ となるため通常避けます。先行詞が who の場合は that が好まれることを覚えておきましょう。

- (10) 正解②:あなたが履いている靴はかなり高そうに見える。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞が省略された構造を問う問題です。The shoes [you are wearing] では、先行詞 The shoes が wear の目的語に当たり、目的格の関係代名詞 which / that が省略されているため、② you are wearing が正解です。①は主語がなく、③では shoes が wear の動作主になってしまい、④は are が欠けています。名詞+S+V の形では目的格関係代名詞の省略を疑いましょう。

- (11) 正解②:あなたが履いている靴はかなり高そうに見える。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞が省略された構造を問う問題です。The shoes [you are wearing] では、先行詞 The shoes が wear の目的語に当たり、目的格の関係代名詞 which / that が省略されているため、② you are wearing が正解です。①は主語がなく、③では shoes が wear の動作主になり、④は are が欠けています。名詞+S+V の形では目的格関係代名詞の省略を疑いましょう。

- (12) 正解④:彼女は、よく知るようになるのが難しい女の子だ。

[解説]この問題は人を先行詞とする目的格の関係代名詞を問う問題です。it is difficult to get to know ~ well の ~ に当たる目的語が欠けており、先行詞 a girl がその目的語になるため、④ whom が正解です。① as はこの形では用いず、② whose は所有格、③ what は先行詞を含む関係代名詞なので適しません。関係詞節の中で先行詞がどの役割を果たすかを確認しましょう。

- (13) 正解①:私が昨日会った女の子はともかわいかった。

[解説]この問題は人を先行詞とする目的格の関係代名詞を問う問題です。後ろの I met ~ yesterday では met の目的語が欠けており、先行詞 The girl がその目的語になるため、① that が正解です。② whose は所有格、③ which は物を先行詞とするのが基本です。④ whom も文法上可能ですが、本問では出題上①を正答としています。目的格では that / whom が使えることも確認しましょう。

- (14) 正解③:彼が探していた家は大通りにあった。

[解説]この問題は関係代名詞 which と関係副詞 where の識別を問う問題です。look for ~ は「~を探す」という他動詞相当の表現で、後ろの he was looking for には for の目的語が欠けているため、③ which が正解です。① where を用いると節内の for の目的語がなくなり、② what は先行詞 the house と併用できません。④ in which も look for の語法に合いません。後続節が不完全なら関係代名詞を選びま

す。

- (15) 正解③:地球温暖化は、私たちがもっと真剣に議論しなければならない重要な問題である。

[解説]この問題は物を先行詞とする目的格の関係代名詞を問う問題です。discuss ~ は「~について議論する」という他動詞で、後ろの we have to discuss more seriously には discuss の目的語が欠けているため、③ which が正解です。① how と④ why は関係副詞、② what は先行詞を含むため an important issue と併用できません。discuss + 目的語であり、discuss about ~ としない点も重要です。

- (16) 正解①:私が先週開店したそのスペイン料理店へ行きましょう。

[解説]この問題は物を先行詞とする目的格の関係代名詞を問う問題です。後ろの I opened ~ last week では opened の目的語が欠けており、先行詞 the Spanish restaurant がその目的語になるため、① that が正解です。② who は人、③ where は後続節が完全な場合に用いる関係副詞なので適しません。④ which も文法上可能ですが、本問では出題上①を正答としています。目的格の that / which の働きを押さえましょう。

- (17) 正解①:彼は 10 年前のような臆病者ではない。

[解説]この問題は関係代名詞が関係詞節内で補語になる用法を問う問題です。he was ~ ten years ago の ~ には be 動詞 was の補語が必要で、先行詞 the coward を受け

る① that が正解です。② who は通常主格、③ when は時を表す関係副詞、④ whom は目的格なので適しません。関係代名詞は主語・目的語だけでなく、be 動詞の補語として働く場合があることも覚えておきましょう。

- (18) 正解①:彼は 10 年前のような臆病者ではない。

[解説]この問題も関係代名詞が補語として働く用法を問う問題です。関係詞節は he was ~ ten years ago で、was の後ろに補語が欠けており、先行詞 the coward を受けてその補語となる① that が正解です。② who は主格、③ when は関係副詞、④ whom は目的格なのでこの位置には適しません。the + 名詞 + that + S + be では that が補語になる場合があります。

- (19) 正解①:彼は、私が初めて彼を知ったころの彼ではない。

[解説]この問題は補語として用いられる関係代名詞を問う問題です。he was ~ when I first knew him では was の補語が欠けており、先行詞 the man を受けて補語となる① that が正解です。② what はそれ自体に先行詞を含むため the man と併用できず、③ which は人を先行詞とせず、④ whom は目的格です。関係詞節が S + be + 補語欠落になっていることを見抜きましょう。

- (20) 正解②:患者を手術することを仕事とする医師は外科医と呼ばれる。

[解説]この問題は所有格の関係代名詞 whose を問う問題です。先行詞 A doctor と後ろの job の間には「その医師の仕事」という所有関係が

あるため、② whose が正解です。whose job is ~ で「その仕事が～であるところの」という意味になります。

① who は主格、③ whom は目的格、④ that には所有格の用法がありません。whose + 名詞という形をひとかたまりで覚えておきましょう。

- (21) 正解③:孤児とは、両親がともに亡くなっている子どものことである。

[解説]この問題は人を先行詞とする所有格の関係代名詞を問う問題です。先行詞 a child と parents の間に「その子どもの両親」という所有関係があるため、③ whose が正解です。whose parents are both dead で「両親がともに亡くなっている」という意味になります。① who と④ whom は名詞 parents を直接修飾できず、② of whom もこの語順では使えません。whose + 名詞 + 動詞の形を確認しましょう。

- (22) 正解④:私は、姓名が私と同じ女性を知っている。

[解説]この問題は所有格の関係代名詞 whose を問う問題です。先行詞 a woman と first and last names の間には「その女性の姓名」という所有関係があるため、④ whose が正解です。whose first and last names で「その人の姓と名」という意味になります。① which は物、② what は先行詞を含む関係代名詞、③ who は主格で後ろの名詞を修飾できません。所有関係を見つけたら whose + 名詞を考えましょう。

- (23) 正解②:あなたが自転車を盗まれた少年ですか。

[解説]この問題は所有格の関係代名

詞 whose を問う問題です。先行詞 the boy と bicycle の間に「その少年の自転車」という所有関係があるため、② whose が正解です。whose bicycle was stolen で「その自転車が盗まれた」という関係詞節になります。① who は主格、③ your と④ his は関係詞として 2 つの節を結ぶ働きがありません。先行詞 + whose + 名詞の基本形を確実に覚えましょう。

- (24) 正解②: 自転車を盗まれた少年は、その被害を警察に届け出た。

[解説]この問題は所有格の関係代名詞 whose を問う問題です。先行詞 The boy と bicycle の間に所有関係があり、「その少年の自転車」を表すため、② whose が正解です。① who と③ that は後ろの bicycle を直接修飾できず、④ of which は物を先行詞とする表現なので人である the boy には適しません。whose bicycle was stolen のように whose の直後には所有される名詞を置きます。

- (25) 正解②: 彼らは「頂上が天まで届く塔を建てよう」と言った。

[解説]この問題は物を先行詞とする所有格の関係代名詞 whose を問う問題です。先行詞 a tower と top の間に「その塔の頂上」という所有関係があるため、② whose が正解です。whose は人だけでなく物にも用いることができ、a tower whose top ~ と表せます。① which と④ that は名詞 top を直接所有格として修飾できず、③ whom は人を受け目的格です。whose は物にも使えることが重要です。

- (26) 正解③: 屋根が見えているあの建物の名前は何ですか。

[解説]この問題は whose + 名詞 の語順を問う問題です。先行詞 the building と roof の間には「その建物の屋根」という所有関係があるため、③ whose roof you can see が正解です。① which roof は所有関係を表せず、②は that と its を重ねており、④も which と the roof の関係が正しくありません。whose + 名詞 + S + V の語順を崩さないことがポイントです。

- (27) 正解①: 彼女は授業料の高い英語学校に通っている。

[解説]この問題は whose + 名詞 が関係詞節の主語になる構造を問う問題です。先行詞 an English school と tuition の間に「その学校の授業料」という所有関係があるため、① whose tuition が正解です。全体は whose tuition is high となります。② which tuition、③ the tuition of whose、④ the tuition of that はいずれも所有格の形として不適切です。物を先行詞としても whose + 名詞 が使えます。

- (28) 正解②: 彼女は授業料の高い英語学校に通っている。

[解説]この問題は物を先行詞とする所有格 whose を問う問題です。先行詞 an English school と tuition の間に「その学校の授業料」という所有関係があるため、② whose が正解です。後ろは whose tuition is high となり、whose tuition 全体が関係詞節の主語になります。① the tuition と③ tuition

には節を結ぶ働きがなく、④ that は所有格として名詞 tuition を修飾できません。物 + whose + 名詞も可能です。

- (29) 正解④:意味を十分に理解していない専門用語を使うのは避けるべきだ。

[解説]この問題は所有格の関係代名詞 whose を問う問題です。先行詞 technical terms と meanings の間に「その専門用語の意味」という所有関係があるため、④ whose が正解です。whose meanings you don't understand では meanings が understand の目的語になっています。① what は先行詞を含み、② which は所有格ではなく、③ who は人を先行詞とする主格です。物の場合にも whose + 名詞を使える点を確認しましょう。

- (30) 正解③:これは私には意味が理解できないことわざである。

[解説]この問題は物を先行詞とする所有格 whose を問う問題です。先行詞 a proverb と meaning の間に「そのことわざの意味」という所有関係があるため、③ whose が正解です。whose meaning I can't understand で、meaning は understand の目的語になります。① which と② that は後ろの名詞 meaning を所有格として修飾できず、④ what は先行詞を含むため a proverb と併用できません。whose は人・物の両方に使えると覚えましょう。

- (31) 正解③:彼は一冊の本について話したが、私は今その本の題名を思い出せない。

[解説]この問題は 名詞 + of which

の形を問う問題です。先行詞 a book と the title の間には「その本の題名」という所有関係があるため、③ the title of which が正解です。これは whose title とほぼ同じ意味を表します。① in which the title、② which the title、④ that the title では所有関係を正しく表せません。the + 名詞 + of which = whose + 名詞という書き換えを覚えておきましょう。

- (32) 正解④:彼は一冊の本について話したが、私は今その本の題名を思い出せない。

[解説]この問題も 名詞 + of which によって所有関係を表す用法を問う問題です。先行詞 a book と the title の間に「その本の題名」という関係があるため、④ the title of which が正解です。これは whose title と言い換えることができます。① which title、② with the title which、③ in which the title はいずれもこの所有関係を正しく表せません。the title of which の語順を確実に覚えましょう。

- (33) 正解②:昨日メアリーは私に本をくれたが、その本の表紙は青かった。

[解説]この問題は the + 名詞 + of which の形を問う問題です。先行詞 a book は物であり、「その本の表紙」は the cover of which と表すため、② which が正解です。① what は先行詞を含む関係代名詞で、③ that は前置詞 of の直後には置けません。④ whom は人を先行詞とする目的格です。the cover of which = whose cover という所有関係を理

解しておきましょう。

- (34) 正解③:これは私が先週の日曜日に家族と行ったレストランです。

[解説]この問題は go と visit の語法を関係詞と組み合わせて問う問題です。go は自動詞なので場所へ「行く」は go to+場所 とし、先行詞 the restaurant が to の目的語になるため、③ which I went to が正解です。①は to がなく、② where と to が重複し、④ visit は他動詞なので visit to とはしません。go to+場所 / visit+場所の違いを確実に覚えておきましょう。

- (35) 正解④:京都は、私が学生時代に何度か訪れた都市です。

[解説]この問題は visit と go の語法を関係詞と組み合わせて問う問題です。visit は「～を訪れる」という他動詞なので前置詞 to を必要とせず、visit+場所となるため、④ which I visited が正解です。①は visit の前に不要な to があり、② where を用いると visited の目的語が欠けます。③ to which I went は文法上成立しますが、本問の選択肢上は④を想定した設問です。visit は他動詞であることを押さえましょう。

- (36) 正解③:上野は、私が今いちばん行きたい町です。

[解説]この問題は go to と visit の語法の違いを問う問題です。go は自動詞なので「町へ行く」は go to the town とし、前置詞を関係代名詞の前に出すと to which I want to go となるため、③が正解です。① visit は他動詞なので to which と組み合わせられず、② where の後

で visit の目的語が欠けます。④は go の後に必要な to がありません。go to+場所の to を忘れないようにしましょう。

- (37) 正解③:これは私が先週の日曜日に家族と行ったレストランです。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞の省略と go to の語法を問う問題です。もとの形は the restaurant which I went to で、which は前置詞 to の目的語なので省略でき、③ I went to が正解です。①は to がなく、②は to which と文末の to が重複しています。④も where 自体が場所を表すため文末の to と重複します。the place (which) I went to の形を確認しましょう。

- (38) 正解④:私たちが昨日の会議で話し合った問題は解決するのが難しい。

[解説]この問題は talk about と discuss の語法の違いを問う問題です。「～について話す」は talk about ～ なので、前置詞を関係代名詞の前に出した ④ about which we talked が正解です。①は talk の後の about がなく、②と③は discuss に不要な about を付けています。discuss は「～について議論する」という他動詞なので discuss+目的語となります。**talk about ~ / discuss ~**を区別しましょう。

- (39) 正解③:私たちが話し合ったその問題は、メンバーの間に依然として議論を呼んでいる。

[解説]この問題は他動詞 discuss の語法を問う問題です。discuss は「～について議論する」という意味をそれ自体に含む他動詞なので、前置詞

- about を付けず discuss + 目的語とし、③ which we discussed が正解です。① talk には about が必要で、②と④は discuss に不要な about を付けています。日本語の「～について」に引かれて discuss about ～ としないよう注意しましょう。
- (40) 正解②: 昨日一日中机の上に置いてあった本は私の姉のものです。
[解説]この問題は自動詞 lie と他動詞 lay の識別を問う問題です。先行詞 The book が「机の上に横たわっていた」という意味なので、自動詞 lie 「横たわる」の過去形 lay を用い、② which lay が正解です。① laid は他動詞 lay 「～を横たえる」の過去形で目的語が必要です。③ lain は lie の過去分詞、④では she が主語となり文構造も意味も合いません。lie – lay – lain / lay – laid – laid を区別しましょう。
- (41) 正解①: 彼女には、自慢に思っている賢い息子がいる。
[解説]この問題は be proud of ～ と前置詞 + 関係代名詞を問う問題です。「～を誇りに思う」は be proud of ～ なので、of の目的語となる a clever son を whom で受け、① of whom she is proud が正解です。③のように前置詞の直後に that を置くことはできません。なお②や④のように前置詞を後置する形も一般には可能ですが、本問では前置詞 + 関係代名詞の形として①を選びます。前置詞 + whom を確認しましょう。
- (42) 正解③: 夏目漱石は、私が最大の敬意を抱いている人物である。
[解説]この問題は have respect
- for ～ の語法と前置詞 + 関係代名詞を問う問題です。「～に敬意を抱く」は have respect for ～ なので、先行詞 a man を whom で受けて③ for whom が正解です。① whom だけでは必要な前置詞 for がなく、② with whom、④ of whom も respect と結びつく前置詞が誤っています。熟語の前置詞をそのまま関係代名詞の前に置くことを理解しましょう。
- (43) 正解③: これらは、彼が自分の家を建てるのに使った道具です。
[解説]この問題は with + 道具 と前置詞 + 関係代名詞を問う問題です。「道具を使って家を建てる」は build a house with the tools と表すため、with を関係代名詞の前に置いた③ with which が正解です。① which と② that では道具を表す前置詞 with がなく、④ with that は前置詞の直後に関係代名詞 that を置けないため誤りです。前置詞 + which では that は使えません。
- (44) 正解③: これらは、彼が自分の家を建てるのに使った道具です。
[解説]この問題も道具を表す前置詞 with と関係代名詞の組み合わせを問う問題です。もとの形は he built his own house with the tools なので、the tools を先行詞として前置詞を前に出すと with which となり、③が正解です。①と④では必要な with がなく、② with that は前置詞 + that という不可能な形です。前置詞 + 関係代名詞では which / whom を用いることを覚えておきましょう。

- (45) 正解③:私が昨夜寝たベッドはあまり快適ではなかった。

[解説]この問題は前置詞を文末に残した目的格関係代名詞の省略を問う問題です。「ベッドで寝る」は sleep in the bed なので、関係代名詞を省略すると③ The bed I slept in が正解です。①は必要な in がなく、②は前置詞の直後に that を置いているため誤りです。④も in の直後に関係代名詞がありません。the bed (which) I slept in のように、前置詞を残せば目的格関係代名詞を省略できます。

- (46) 正解④:計画が不十分だと、本当に成功できない仕事を選ぶことになりかねない。

[解説]この問題は 前置詞 + which の形を問う問題です。「ある仕事で成功する」は be successful in a job と表すため、先行詞 a job を which で受けて④ in which が正解です。① to whom は人を先行詞とする形で、② that では必要な前置詞 in がありません。③ of which も successful と結びつく前置詞が誤っています。be successful in ~ → in which という対応を確認しましょう。

- (47) 正解③:教授は確かに学生に「私が講義で言及した文章を読みなさい」と言った。

[解説]この問題は refer to ~ の語法と前置詞 + 関係代名詞を問う問題です。「~に言及する」は refer to ~ なので、先行詞 the passage を which で受け、③ to which が正解です。① that と④ which だけでは refer に必要な to がなく、② to

that は前置詞の直後に関係代名詞 that を置いているため誤りです。refer to ~ → to which S refer の形を覚えておきましょう。

- (48) 正解④:昨年国際会議が開催された町は湖の近くにある。

[解説]この問題は場所を表す in which の用法を問う問題です。「その町で会議が開催された」は the conference was held in the town なので、the town を which で受けて④ in which が正解です。① in that は前置詞 + that なので不可、② in where は in と where が重複します。③ which だけでは held の後に必要な場所を表す前置詞 in がありません。in which = where の関係を確認しましょう。

- (49) 正解②:私は彼女が話の中で触れていた場所へ行ったことがある。

[解説]この問題は speak of ~ と関係代名詞の語法を問う問題です。「~について話す・~に触れる」は speak of ~ と表し、先行詞 the place が of の目的語になるため、② which she spoke of が正解です。① where を用いると文末の of の目的語がなくなり、③には speak に必要な of がありません。④ that she spoke of も文法上可能ですが、本問では②を正答とする設問です。前置詞の目的語となる関係代名詞に注目しましょう。

- (50) 正解③:彼は、私たちが先日話していた少年です。

[解説]この問題は speak of ~ と前置詞 + 関係代名詞を問う問題です。

「～について話す」は speak of ～ と表すため、先行詞 the boy を whom で受け、③ of whom が正解です。① whom と② who では speak に必要な前置詞 of がなく、④ of that は前置詞の直後に関係代名詞 that を置けないため誤りです。人を先行詞として前置詞を前置する場合は、前置詞+whom の形を用います。

- (51) 正解③:18歳のとき、今53歳の私のような、苦勞して得た知恵を持ち、助言を求めて頼ることのできる年長者を知っていればよかったのと思う。

[解説]この問題は go to 人 for advice の語法と前置詞+関係代名詞を問う問題です。「人のところへ助言を求めに行く」は go to 人 for advice と表すため、先行詞 an older person を whom で受けて③ to whom が正解です。① which は人には用いず、② for whom では go と結びつく前置詞が誤り、④ with which も不適切です。go to 人 for ～ → to whom S go for ～ の形を押さえましょう。

- (52) 正解②:古代の建築家たちが石を切るのに使った道具は、驚くほど単純なものだった。

[解説]この問題は道具を表す前置詞 with と関係代名詞の組み合わせを問う問題です。「その道具で石を切る」は cut the stone with the tool と表すため、which の前には② with が入ります。① by は行為者や手段を表す場合がありますが、このように具体的な道具には通常 with を用います。③ in、④ to も適しません。道具

+with which+S+V の形を覚えておきましょう。

- (53) 正解③:私は、わずか数年で彼がそこまで変わったことに驚いた。

[解説]この問題は the degree to which ～ という重要表現を問う問題です。degree は「程度」を表し、「～する程度」は the degree to which S+V と表すため、③ to which が正解です。① which だけでは degree との関係を十分に表せず、② in which は場所・状況などを表す形、④ how は先行詞 the degree と併用できません。the degree to which ～ = ～する程度として覚えておきましょう。

- (54) 正解③:私たちの決定が周囲の環境からどの程度影響を受けているかを理解している人はほとんどいない。

[解説]この問題は the extent to which ～ という重要表現を問う問題です。extent は「程度・範囲」を表し、「～する程度」は the extent to which S+V と表すため、③ to が正解です。① at、② for、④ with は extent と関係代名詞を結ぶ前置詞として適しません。the degree to which ～ / the extent to which ～ はともに「～する程度」を表す頻出表現としてまとめて覚えましょう。

- (55) 正解③:ソーシャルメディアは、若者同士が意思疎通をする方法を大きく変えた。

[解説]この問題は the way in which ～ の形を問う問題です。「～する方法・やり方」は the way in which S+V と表すことができるため、③ in が正解です。① at、② by、

④ for はこの形では用いません。the way の後ろでは in which のほか、that や関係詞の省略も可能です。the way in which S + V = the way (that) S + V という関係を覚えておきましょう。

- (56) 正解③:彼女がその壊れやすい機器を扱う際の慎重さに、誰もが感心した。

[解説]この問題は the care with which ~ という表現を問う問題です。「慎重に～する」は with care と表すため、care を先行詞として関係詞節を作ると the care with which she handled ~ となり、③ with が正解です。① at、② in、④ to は care とこの意味で結びつきません。副詞的な with care が the care with which ~ に変わる構造を理解しておきましょう。

- (57) 正解③:彼が自分の提案を擁護したときの自信は、部屋にいた全員に明らかだった。

[解説]この問題は the confidence with which ~ の形を問う問題です。「自信を持って～する」は with confidence と表すため、confidence を先行詞として関係詞節にすると the confidence with which he defended ~ となり、③ with が正解です。① by、② in、④ to はこの構造には適しません。with + 抽象名詞 → the + 名詞 + with which ~ という書き換えを理解しておきましょう。

- (58) 正解②:彼女がそのような寛大な申し出を断った理由を、誰も理解できなかった。

[解説]この問題は the reason for which ~ の形を問う問題です。「～の理由」は the reason for ~ と表すため、which の前には② for が入り、the reason for which she had refused ~ となります。これは the reason why ~ とほぼ同じ意味です。① at、③ with、④ to は reason と結びつく前置詞として適しません。*the reason for which ~ = the reason why ~*を覚えておきましょう。

- (59) 正解③:彼女には 3 人の息子がおり、そのうち最年長の息子はロンドンで医学を学んでいる。

[解説]この問題は the + 最上級 + of whom の形を問う問題です。「3 人の息子のうち最年長の者」は the oldest of the three sons と表すため、先行詞 three sons を whom で受けて the oldest of whom となり、③ of が正解です。① in、② with、④ among はこの構造では用いません。数量・最上級 + of whom / which の形では、全体の中から一部を取り出す of を用います。

- (60) 正解③:その美術館には多数の絵画が所蔵されており、その中にはピカソの作品が数点ある。

[解説]この問題は 前置詞 + which を用いた非制限用法を問う問題です。「その絵画の中に」は among the paintings と表すため、先行詞 paintings を which で受けて③ among which が正解です。①は前置詞の直後に that を置いているため不可、② among them ではコンマの前後を接続できません。④は and

が加わり文構造が変わります。前置詞 + which が前の名詞を受ける構造を押さえましょう。

- (61) 正解③:政府は厳しい制限を設け、それを超える開発は認められないことになった。

[解説]この問題は beyond which ~ という前置詞 + 関係代名詞の形を問う問題です。「その制限を超えて」は beyond the limits と表すため、limits を which で受けて③ beyond which が正解です。① beyond だけでは目的語がなく、② beyond it ではコンマの前後を関係詞で結べません。④ which beyond は語順が逆です。前置詞 + which + S+V の基本語順を確認しましょう。

- (62) 正解④:科学者たちは、北極の氷が消失している速度を注意深く観測している。

[解説]この問題は the rate at which ~ という重要表現を問う問題です。「～する速度で」は at a rate と表すため、rate を先行詞として関係詞節を作ると the rate at which the Arctic ice is disappearing となり、④ at が正解です。① with、② for、③ in は rate とこの意味では結びつきません。the rate at which S+V=S が V する速度として覚えておきましょう。

- (63) 正解③:その病気が広がった速さには、医師たちさえ驚いた。

[解説]この問題は the speed at which ~ の形を問う問題です。「ある速度で」は at a speed と表すため、speed を先行詞として関係詞節を作ると the speed at which the

disease spread となり、③ at が正解です。① in、② with、④ for は speed とこの意味で結びつきません。the speed at which ~ / the rate at which ~ は同じ発想で処理できる重要表現です。

- (64) 正解③:すべての申請が評価される際の規則は、手引書に明記されている。

[解説]この問題は群前置詞 according to と関係代名詞の組み合わせを問う問題です。「その規則に従って」は according to the rules と表すため、the rules を which で受けて③ according to which が正解です。①では which がなく節を結べず、②は to が欠けています。④ according to them では関係詞節を作れません。群前置詞 + which も一まとまりとして関係代名詞の前に置けます。

- (65) 正解③:私たちはついに、古代の建築家たちが巨大な石を動かした方法を突き止めた。

[解説]この問題は群前置詞 by means of ~ と関係代名詞を問う問題です。「～によって・～を用いて」は by means of ~ と表すため、先行詞 the method を which で受けて③ by means of which が正解です。①は of which がなく、②は語順が不適切で、④は it を用いているため関係詞節を作れません。by means of which = それによってという形をまとめて覚えておきましょう。

- (66) 正解③:実験を延期せざるを得なかった原因となった技術上の問題が、ついに特定された。

[解説]この問題は群前置詞 owing

to ～ と関係代名詞の組み合わせを問う問題です。「～が原因で」は owing to ～ と表すため、先行詞 The technical problem を which で受けて③ owing to which が正解です。① owing だけでは to がなく、②も to が欠けています。④ owing to it では2つの節を関係詞で結べません。owing to which = そのためにという非制限的な関係を押さえましょう。

- (67) 正解③:彼女は、緊急時に私が頼ることのできる唯一の人です。

[解説]この問題は depend on ～ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～を頼る・～に依存する」は depend on ～ と表すため、先行詞 the only person を whom で受けて③ on が正解です。① at、② for、④ with は depend とこの意味で結びつきません。depend on 人 → the person on whom S depend のように、熟語の前置詞をそのまま関係代名詞の前に置きます。

- (68) 正解②:私が会議の後で話をした女性は、役に立つ助言をいくつかしてくれた。

[解説]この問題は speak to 人の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「人に話しかける・人と話す」は speak to 人と表すため、先行詞 The woman を whom で受けて② to が正解です。① about は「～について」、③ for、④ on もこの意味では speak と結びつきません。speak to 人 → the person to whom S spoke の形を確実に覚えておきましょう。

- (69) 正解③:その運転手に責任のあった事故は、深刻な交通の遅れを引き起こした。

[解説]この問題は be responsible for ～ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に責任がある」は be responsible for ～ と表すため、先行詞 The accident を which で受けて③ for が正解です。① at、② with、④ on は responsible とこの意味で結びつきません。be responsible for ～ → the thing for which S be responsible と、熟語をもとの形に戻して考えましょう。

- (70) 正解③:彼女は、緊急時に私が頼ることのできる唯一の人です。

[解説]この問題は depend on ～ と前置詞＋関係代名詞の組み合わせを問う問題です。「～を頼りにする」は depend on ～ なので、先行詞 the only person を whom で受け、③ on が正解です。① at、② for、④ with は depend と組み合わせる前置詞として適しません。関係詞の問題でも、まず I can depend on the person という元の文に戻せば、on whom が自然に導けます。

- (71) 正解②:私が会議の後で話をした女性は、役に立つ助言をいくつかしてくれた。

[解説]この問題は speak to 人の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「人に話しかける・人と話す」は speak to 人と表すため、先行詞 The woman を whom で受けて② to が正解です。① about は「～について」、③ for、④ on もこの意味では

speak と結びつきません。speak to 人 → the person to whom S spoke のように、もとの熟語から前置詞を判断しましょう。

- (72) 正解③:その運転手に責任のあった事故は、深刻な交通の遅れを引き起こした。

[解説]この問題は be responsible for ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に責任がある」は be responsible for ~ と表すため、先行詞 The accident を which で受けて③ for が正解です。① at、② with、④ on は responsible とこの意味では結びつきません。the accident for which the driver was responsible と、もとの responsible for the accident に戻して考えましょう。

- (73) 正解②:教授が講義中に言及した文書はオンラインで利用できる。

[解説]この問題は refer to ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に言及する」は refer to ~ と表すため、先行詞 The document を which で受けて② to が正解です。① for、③ on、④ with は refer とこの意味では結びつきません。refer to the document → the document to which the professor referred のように、熟語に含まれる前置詞をそのまま which の前に置きます。

- (74) 正解②:彼は、現代文学について論じるときに私がよく思い浮かべる作家である。

[解説]この問題は think of ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問

題です。「～のことを考える・～を思い浮かべる」は think of ~ と表すため、先行詞 a writer を whom で受けて② of が正解です。① at、③ with、④ on はこの意味の think と結びつきません。think of the writer → the writer of whom I think のように、関係詞の問題でも熟語の前置詞を正確に判断しましょう。

- (75) 正解③:これは、多くの政府が対処しようと苦勞してきた難しい問題である。

[解説]この問題は deal with ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「問題などに対処する」は deal with ~ と表すため、先行詞 a difficult issue を which で受けて③ with が正解です。① for、② at、④ of は deal と「対処する」の意味では結びつきません。deal with the issue → the issue with which governments deal と、熟語をもとの形に戻して考えるのがポイントです。

- (76) 正解②:彼女が長年世話をしていたその老人は、彼女に手紙を残した。

[解説]この問題は take care of ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～の世話をする」は take care of ~ と表すため、先行詞 The elderly man を whom で受けて② of が正解です。① with、③ for、④ at は take care とこの意味では結びつきません。take care of the man → the man of whom she took care のように、熟語の最後の前置詞を whom の前に置きます。

- (77) 正解④:私たちはついに、委員の大

半が賛成していなかった計画を断念した。

[解説]この問題は disapprove of ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に賛成しない・～をよくないと思う」は disapprove of ~ と表すため、先行詞 the plan を which で受けて④ of が正解です。① with、② at、③ for は disapprove と結びつく前置詞ではありません。disapprove of the plan → the plan of which the members disapproved と考えれば正解を判断できます。

- (78) 正解③:委員会が目指していた目標を十分に理解している人はいなかった。

[解説]この問題は aim at ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～を目指す」は aim at ~ と表すため、先行詞 the goal を which で受けて③ at が正解です。① to、② for、④ on は aim とこの意味では結びつきません。aim at the goal → the goal at which the committee was aiming のように、動詞と前置詞の組み合わせから関係詞の前置詞を判断しましょう。

- (79) 正解③:その若い科学者が自分が巻き込まれていると感じていた困難を理解する人はほとんどいなかった。

[解説]この問題は be involved in ~ の語法と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に関わっている・巻き込まれている」は be involved in ~ と表すため、先行詞 the difficulties を which で受けて③ in が正解です。① at、② with、④

for はこの形では適しません。find oneself involved in ~「自分が～に巻き込まれていることに気づく」という表現も合わせて覚えておきましょう。

- (80) 正解②:教授が講義中に言及した文書はオンラインで利用できる。

[解説]この問題は refer to ~ と前置詞＋関係代名詞の組み合わせを問う問題です。「～に言及する」は refer to ~ なので、先行詞 The document を which で受けて② to が正解です。① for、③ on、④ with は refer とこの意味では結びつきません。関係詞節を the professor referred to the document に戻すと、必要な前置詞が to であることを容易に確認できます。

- (81) 正解②:彼は、現代文学について論じるときに私がよく思い浮かべる作家である。

[解説]この問題は think of ~ と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～のことを考える・～を思い浮かべる」は think of ~ なので、先行詞 a writer を whom で受けて② of が正解です。① at、③ with、④ on はこの意味では適しません。I often think of the writer → the writer of whom I often think と元の語順に戻せば、前置詞を正確に判断できます。

- (82) 正解③:これは、多くの政府が対処しようと苦労してきた難しい問題である。

[解説]この問題は deal with ~ と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～に対処する」は deal with ~ と

表すため、先行詞 a difficult issue を which で受けて③ with が正解です。① for、② at、④ of は deal とこの意味では結びつきません。governments deal with the issue → the issue with which governments deal と元の文に戻して前置詞を判断しましょう。

- (83) 正解②:彼女が長年世話をしていたその老人は、彼女に手紙を残した。

[解説]この問題は take care of ～と前置詞＋関係代名詞を問う問題です。「～の世話をする」は take care of ～ なので、先行詞 The elderly man を whom で受けて② of が正解です。① with、③ for、④ at は take care とこの意味では結びつきません。she had taken care of the man → the man of whom she had taken care と考えれば、of を自然に導くことができます。

- (84) 正解③:嵐で屋根が損傷したその家は、ついに修理された。

[解説]この問題は the＋名詞＋of which＝whose＋名詞 の書き換えを問う問題です。「その家の屋根」は the roof of the house なので、the house を which で受けると the roof of which となり、③ which が正解です。これは whose roof や of which the roof と言い換えられます。① what、② that、④ it は前置詞 of の目的語となる関係代名詞として使えません。

- (85) 正解④:私は、著者が有名な歴史家である本を買った。

[解説]この問題は the＋名詞＋of which によって所有関係を表す形を

問う問題です。「その本の著者」は the author of the book なので、先行詞 a book を which で受けると the author of which となり、④ which が正解です。これは whose author や of which the author と言い換えられます。① that は前置詞 of の直後には置けず、② it、③ what もこの構造には使えません。

- (86) 正解②:私たちは、千年以上の歴史を持つ村を訪れた。

[解説]この問題は the＋名詞＋of which＝whose＋名詞 の書き換えを問う問題です。「その村の歴史」は the history of the village なので、先行詞 a village を which で受けて the history of which となり、② which が正解です。これは whose history や of which the history と言い換えられます。① it、③ that、④ what は前置詞 of の目的語としてこの関係詞構造を作れません。

- (87) 正解③:私たちの村がふもとにあるその山は、冬の間ずっと雪に覆われている。

[解説]この問題は 前置詞＋the＋名詞＋of which と 前置詞＋whose＋名詞 の対応を問う問題です。「その山のふもとに」は at the foot of the mountain なので、the mountain を which で受けると at the foot of which となり、③ which が正解です。これは at whose foot と言い換えられます。① that は前置詞 of の直後には置けず、② it、④ what も関係代名詞として適しません。

- (88) 正解④:彼らは、中央に古い木製の

テーブルが置かれている大広間に入った。

[解説]この問題は 前置詞+the+名詞+of which と 前置詞+whose+名詞 の対応を問う問題です。「その広間の中央に」は in the center of the hall なので、the hall を which で受けると in the center of which となり、④ which が正解です。これは in whose center と言い換えられます。① that は前置詞 of の直後には置けず、② it、③ what もこの関係詞構造には用いません。

- (89) 正解③: 私たちがコンサートの後に行ったレストランは、すでに混雑していた。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞の省略を問う問題です。もとの形は the restaurant which we went to で、which は前置詞 to の目的語なので省略でき、③ ×(省略) が正解です。① where を用いるなら文末の to は不要で、② to which を入れると文末の to と重複します。④ what は先行詞を含むため restaurant と併用できません。場所+S+go to では関係代名詞の省略が可能です。

- (90) 正解③: 私たちが旅行中に訪れたその小さな町は、古い寺院で有名だった。

[解説]この問題は他動詞 visit と目的格関係代名詞の省略を問う問題です。visit は「～を訪れる」という他動詞なので、we visited the small town がもとの形となり、目的語に当たる関係代名詞を省略した③ ×(省略) が正解です。① where や④ in

which の後ろには完全な文が必要で、② to which は visit に不要な to を伴います。visit+場所であることを確認しましょう。

- (91) 正解③: 私たちが昨日の会議で話し合った問題は、まだ解決されていない。

[解説]この問題は他動詞 discuss と目的格関係代名詞の省略を問う問題です。discuss は「～について議論する」という他動詞なので、we discussed the issue がもとの形となり、目的語の関係代名詞を省略した③ ×(省略) が正解です。① about which は discuss に不要な about を伴い、② where、④ what も適しません。discuss+目的語であり、discuss about ～ としないことが重要です。

- (92) 正解③: 祖父の出身地であるその村は、長年の間に大きく変わった。

[解説]この問題は前置詞を文末に残した目的格関係代名詞の省略を問う問題です。もとの形は my grandfather came from the village なので、the village を先行詞にすると the village (which) my grandfather came from となり、③ ×(省略) が正解です。① where では文末の from と重複し、② from where もこの文では from が重複します。④ which from は語順が誤っています。

- (93) 正解④: 彼女が会議に持ってきた書類には、重要な情報がいくつか含まれていた。

[解説]この問題は他動詞の目的語となる関係代名詞の省略を問う問題です。もとの形は she brought the

documents to the meeting で、the documents は brought の目的語なので、関係代名詞 which / that を省略した④ ×(省略) が正解です。① to which では documents が「会議に」の意味になり、② where は場所を表す関係副詞です。③ which to も語順が不適切です。目的格の関係代名詞は省略できます。

- (94) 正解②:私が昨日彼に言った言葉が、彼をととても怒らせた。

[解説]この問題は say / talk の語法と関係代名詞の省略を問う問題です。「言葉を人に言う」は say words to 人と表すため、② said が正解です。The words (which) I said to him で、The words が said の目的語になっています。① talk は通常この形で words を直接目的語に取らず、③ talked about では「その言葉について話した」、④ said about も語法が合いません。say + 内容 + to 人を覚えましょう。

- (95) 正解②:彼女が昨日私たちに話してくれた話は、本当だと分かった。

[解説]この問題は say / tell / speak / talk の語法を問う問題です。「人に話をする」は tell + 人 + 内容 と表すため、② told が正解です。The story (which) she told us では、story が told の直接目的語、us が間接目的語になります。① say は say + 内容 + to 人、③ speak と④ talk はこの形で「人 + 内容」を直接続けられません。tell 人物の語順を確実に覚えましょう。

- (96) 正解③:彼が机の上に置いた本に

は、ほこりがかぶっていた。

[解説]この問題は lie と lay の語法と関係代名詞の省略と組み合わせて問う問題です。「本を机の上に置く」は他動詞 lay + 目的語 を用い、その過去形は laid なので、③が正解です。The books (which) he laid on the desk で books が laid の目的語です。① lay は lie「横たわる」の過去形、② lain はその過去分詞、④ lied は lie「うそをつく」の過去形です。lay-laid-laidを確認しましょう。

- (97) 正解③:彼女が議論の中で提起した重大な問題には、まだ答えが出ていない。

[解説]この問題は raise / rise / arise の語法を問う問題です。「問題を提起する」は他動詞 raise + 目的語 と表すため、その過去形③ raised が正解です。The serious question (which) she raised では question が raised の目的語になっています。① rose と② risen は自動詞 rise の過去形・過去分詞、④ arose は自動詞 arise の過去形なので目的語を取りません。raise は他動詞、rise / arise は自動詞と区別しましょう。

- (98) 正解③:私たちが夏休みに訪れることにした国は、美しい湖で有名である。

[解説]この問題は go と visit の語法と関係代名詞の省略と組み合わせて問う問題です。先行詞 The country が空所後の動詞の目的語になる必要があるため、他動詞③ visit が正解です。the country (which) we decided to visit とい

う構造です。① go は自動詞なので場所の前に to が必要で、② go to では country が前置詞の目的語となるため文の作りが異なります。④ visit to は誤りです。visit + 場所を確認しましょう。

- (99) 正解②: 私たちが2時間近く話し合った問題は、未解決のままだった。

[解説] この問題は discuss / talk / speak の語法を問う問題です。先行詞 The issue が動詞の直接目的語になるため、「～について議論する」という他動詞② discussed が正解です。The issue (which) we discussed で目的格関係代名詞が省略されています。① talked と④ spoke には通常 about が必要で、③ discussed about は不要な about を伴う誤りです。discuss + 目的語を徹底しましょう。

- (100) 正解②・④: 私たちがようやく着いた駅は、予想していたよりホテルからずっと遠かった。

[解説] この問題は arrive / reach の語法を問う問題です。「駅に到着する」は arrive at the station または reach the station と表すため、② arrived at と④ reached が文法上可能です。① arrived は自動詞なので at が必要で、③ reached to は他動詞 reach に不要な to を付けています。arrive at + 場所 / reach + 場所の違いを覚えておきましょう。本問は正解が2つ成立する点に注意が必要です。

- (101) 正解①: 私たちが静かに入った部屋には、誰もいなかった。

[解説] この問題は enter の語法と

関係代名詞の省略を問う問題です。「部屋に入る」は他動詞 enter + 場所と表すため、① entered が正解です。The room (which) we quietly entered では room が entered の目的語になっています。② enter into はこの意味の「場所に入る」には通常用いず、③ arrive には at が必要です。④ reach to は他動詞 reach に不要な to を付けています。enter + 場所を覚えましょう。

- (102) 正解③: 彼が最終的に結婚した女性は、大学時代の親しい友人の一人だった。

[解説] この問題は marry の語法と関係代名詞の省略を問う問題です。「人と結婚する」は他動詞 marry + 人と表すため、③ married が正解です。The woman (whom) he eventually married で woman が married の目的語になっています。① married with は誤りで、② married to は be married to 人なら可能です。④ get married には to が必要です。marry 人 / be married to 人を区別しましょう。

- (103) 正解①: 彼が若いころによく似ていたその有名な俳優は、今でも人気がある。

[解説] この問題は resemble の語法と関係代名詞の省略を問う問題です。「～に似ている」は他動詞 resemble + 目的語 と表すため、① resembled が正解です。The famous actor (whom) he closely resembled で actor が resembled の目的語になっています。② resemble to は誤りで、③ look

を用いるなら like が必要です。④ similar も be similar to ~ の形が必要です。resemble + 人 / be similar to 人を区別しましょう。

- (104) 正解②: 私たちは最終的に、誰もがその職に最も適任だと考えていた候補者を採用した。

[解説]この問題は believe O to be C の文型と関係代名詞の省略を問う問題です。everyone believed the candidate to be the most suitable がもとの形なので、② believed が正解です。candidate は believed の目的語で、目的格関係代名詞が省略されています。① hope、③ agree、④ suggest はこのまま O + to be C の文型を取りません。believe O to be C = O が C だと考えるを覚えておきましょう。

- (105) 正解②: 試験前に先生があなたに与えた助言には、注意深く従うべきだ。

[解説]この問題は give + 人 + 物 の文型と関係代名詞の省略を問う問題です。もとの形は your teacher gave you the advice で、the advice が直接目的語になるため、② gave が正解です。① explain は explain 物 to 人、③ suggest は通常 suggest 物 to 人、④ mention も mention 物 to 人とするため、この語順には適しません。give 人 物という第 4 文型を確認しましょう。

- (106) 正解③: 私が最も驚いたのは、生徒たちが非常に難しいと感じた課題だった。

[解説]この問題は find O C の第 5 文型と関係代名詞の省略を問う問題

です。the students found the task extremely difficult がもとの形で、task が目的語、extremely difficult が目的格補語となるため、③ found が正解です。① regard は通常 regard O as C、② think はこの形では不自然で、④ consider as は通常 as を必要としません。find O C = O が C だと分かる・感じるを押さえましょう。

- (107) 正解③: これは、私が彼に授業用として選んでもらおうと思っていた本です。

[解説]この問題は expect O to do の文型と関係代名詞の省略を問う問題です。I expected him to choose the book がもとの形なので、③ expected が正解です。先行詞 the book は choose の目的語に当たり、目的格関係代名詞が省略されています。① suggest と② hope はこのまま O + to do を取らず、④ wanted that も語法が不適切です。expect 人 to do = 人が~することを期待するを覚えましょう。

- (108) 正解③: 私が彼のオフィスの壁に掛かっているのを見たその絵に、誰も気づかなかった。

[解説]この問題は see O doing の知覚動詞の文型と関係代名詞の省略を問う問題です。もとの形は I had seen the picture hanging on the wall で、picture が see の目的語、hanging が目的格補語となるため、③ seen が正解です。the picture (which) I had seen hanging ~ では目的格関係代名詞が省略されています。知覚動詞では

see O doing=O が～しているのを見るという形を取ることを確認しましょう。

- (109) 正解②:ここは、モーツァルトが夕食後によく散歩をした公園です。

[解説]この問題は場所を表す関係副詞 where を問う問題です。先行詞は the park で、後ろの Mozart used to take a walk after dinner は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、② where が正解です。① that と③ which は関係代名詞なので、後続節に主語・目的語などの欠落が必要です。④ why は理由を表します。場所＋where＋完全な文という基本形を確実に覚えておきましょう。

- (110) 正解③:あなたがそのカメラを買った店の名前を教えてください。

[解説]この問題は場所を表す関係副詞 where を問う問題です。先行詞は the shop で、後ろの you bought that camera は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、③ where が正解です。① which と② that を用いるなら bought の目的語が欠けている必要がありますが、目的語 that camera がすでにあります。④ why は理由を表す関係副詞です。where=in / at which と考えると分かりやすくなります。

- (111) 正解④:あなたが育った都市について教えてください。

[解説]この問題は場所を表す関係副詞 where を問う問題です。先行詞は the city で、you grew up は主語と動詞がそろった完全な文なので、④ where が正解です。① that と②

which は関係代名詞であり、後続節に名詞要素の欠落が必要です。③ of which も grow up の語法とは結びつきません。the city where you grew up=the city in which you grew up という関係を覚えておきましょう。

- (112) 正解③:フランス人たちは、家々が燃えていた通りにたどり着くのに苦労した。

[解説]この問題は場所を表す関係副詞 where を問う問題です。先行詞は the street で、後ろの the houses were on fire は主語・動詞・補語がそろった完全な文なので、③ where が正解です。① how は方法、② that と④ which は関係代名詞なので、後続節に名詞要素の欠落が必要です。the street where ~ = the street in which / on which ~ のように、場所を表す関係副詞として理解しましょう。

- (113) 正解④:敵は、私たちが座っていた場所から約 20 歩以内のところまで来ていた。

[解説]この問題は先行詞を含む関係副詞 where を問う問題です。where はこの文で the place where「～する場所」の意味を表し、前置詞 of の目的語として④ where が正解です。① which には明示された先行詞が必要で、② the place of は後ろの文を結べません。③ what は「もの・こと」を表す先行詞を含む関係代名詞です。where=the place where と先行詞を含む形で用いられる場合もあります。

- (114) 正解④:私たちが泊まったホテルは、

とても快適だった。

[解説]この問題は場所を表す関係副詞 where と文構造を問う問題です。先行詞は The hotel で、「そのホテルに泊まった」は we stayed at the hotel なので、④ where we stayed が正解です。① that we stayed では stay に必要な場所を表す前置詞がなく、② at where は at と where の働きが重複します。③ we stayed there では関係詞がなく2つの節を結べません。where = at which と考えましょう。

- (115) 正解③:その後、私たちはロンドンへ移り、そこで7年間暮らした。

[解説]この問題は関係副詞 where の非制限用法を問う問題です。先行詞 London は場所を表し、後ろの we lived for seven years は完全な文なので、③ where が正解です。コンマの後の where は「そしてそこで」という意味を表し、in which と言い換えることができます。① how は方法、② when は時、④ why は理由を表します。場所, where S+V という非制限用法も押さえておきましょう。

- (116) 正解④:私が物語の中で最も楽しんだのは、主人公が敵に復讐しようと決意する場面だった。

[解説]この問題は先行詞を含む関係副詞 where を問う問題です。空所の後ろの the hero decided ~ は完全な文で、「主人公が~する場面・箇所」を表すため、④ where が正解です。① which と② in which は通常、前に明示された先行詞を必要とし、③ what は「もの・こと」を表します。ここでは where = the part where /

the point where と考えると構造が分かりやすくなります。

- (117) 正解③:ここが、隣接する村から来る二本の道が市内に入る前に合流する場所です。

[解説]この問題は先行詞が省略された関係副詞 where を問う問題です。後ろの the two roads ~ finally meet は主語と動詞がそろった完全な文で、「二本の道が合流する場所」を表すため、③ where が正解です。① which と② in which は明示された場所の先行詞を必要とし、④ what は「もの・こと」を表す関係代名詞です。This is where ~ = This is the place where ~ と理解しましょう。

- (118) 正解③:あなたが去年の夏に登った山は、日本で2番目に高い山です。

[解説]この問題は関係代名詞 which と関係副詞 where の識別を問う問題です。後ろの you climbed ~ では他動詞 climbed の目的語が欠けており、先行詞 The mountain がその目的語になるため、③ which が正解です。④ where は後ろに完全な文が続く場合に用います。① what は先行詞を含むため mountain と併用できず、② whom は人を先行詞とします。不完全な文なら関係代名詞と判断しましょう。

- (119) 正解②:これは、祖父が50年前に訪れた博物館です。

[解説]この問題は関係代名詞 which と関係副詞 where の識別を問う問題です。visit は「~を訪れる」という他動詞なので、後ろの my grandfather visited には目的語が欠けており、② which が正解です。

① where を用いると visited の目的語がなくなり、③ at which と④ to which は visit に不要な前置詞を伴います。場所が先行詞でも、visit + 場所なら関係代名詞 which を用いることに注意しましょう。

- (120) 正解④: イングランドは、私が長い間ずっと訪れたいと思っている国です。
[解説] この問題は場所を表す先行詞でも関係代名詞を用いる場合を問う問題です。visit は他動詞なので、I've wanted to visit ~ には visit の目的語が欠けており、④ which が正解です。① where と② in which の後ろには完全な文が必要で、③ to which は visit に不要な to を伴います。先行詞が country だから where と決めず、後続節が完全か不完全かで判断しましょう。

- (121) 正解④: イングランドは、私が長い間ずっと訪れたいと思っている国です。
[解説] この問題も関係代名詞 which と関係副詞 where の識別を問う問題です。visit a country のように visit は他動詞として場所を直接目的語に取るため、I've wanted to visit の後ろには目的語が欠けており、④ which が正解です。① where と② in which は完全な文を導き、③ to which は visit に不要な to を付けています。visit + 場所 / go to + 場所の違いも合わせて確認しましょう。

- (122) 正解②: ニューヨークは、私が長い間訪れたいと思っていた都市です。
[解説] この問題は関係代名詞 which と関係副詞 where の使い

分けを問う問題です。visit は他動詞なので、後ろの I have long wanted to visit には目的語が欠けており、先行詞 a city がその目的語になるため、② which が正解です。

① where では後続節が不完全なままとなり、③ what は先行詞を含むため city と併用できません。④ who は人を先行詞とします。場所 + which + 不完全な文を確認しましょう。

- (123) 正解①: インドは、私が子どものころからずっと訪れたいと思っていた国です。

[解説] この問題は場所を表す先行詞に対する関係代名詞 that を問う問題です。visit は他動詞なので、後ろの I have always wanted to visit には目的語が欠けており、先行詞 a country を目的語として受ける① that が正解です。② where は後ろに完全な文が必要で、③ when は時、④ wherever は「どこで～しても」を表します。場所を表す名詞でも、節内で目的語なら that / which を用います。

- (124) 正解④: 彼女は和歌山に住んでいるが、そこはここから 50 キロ離れている。

[解説] この問題は関係代名詞 which の非制限用法を問う問題です。コンマの後ろの is 50 kilometers from here には主語が欠けており、先行詞 Wakayama を主語として受ける④ which が正解です。① there は副詞で節を接続できず、② where は関係副詞なので後ろに主語を含む完全な文が必要です。③ when は時を表します。場所名、which + 動詞で

は which が主語として働きます。

- (125) 正解①:この残酷な戦争が終わる時が、まもなくやって来るだろう。

[解説]この問題は時を表す関係副詞 when を問う問題です。先行詞は The time で、後ろの the cruel war will end は主語と動詞がそろった完全な文なので、① when が正解です。② what は先行詞を含む関係代名詞、③ why は理由、④ how は方法を表します。the time when S + V で「S が V する時」という意味になり、when は at / in which に相当することを覚えておきましょう。

- (126) 正解④:夏は、生徒たちが最も旅行したがる季節です。

[解説]この問題は時を表す関係副詞 when を問う問題です。先行詞は the season で、後ろの students want to travel most は主語と動詞がそろった完全な文なので、④ when が正解です。① with whom は人、② which は関係代名詞なので後続節に名詞要素の欠落が必要です。③ where は場所を表します。時を表す先行詞 + when + 完全な文という基本構造を確認しましょう。

- (127) 正解①:人々が宇宙旅行を楽しむ時代が、まもなくやって来るだろう。

[解説]この問題は時を表す関係副詞 when を問う問題です。先行詞は A time で、後ろの people can enjoy space travel は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、① when が正解です。② where は場所、③ what は先行詞を含む関係代名詞です。④ which は関係代名詞なので後続節に欠落が必要です。a

time when S + V = S が V する時代・時として覚えておきましょう。

- (128) 正解③:私たち一人一人がコンピューターを使う時代が来るだろう。

[解説]この問題は時を表す関係副詞 when を問う問題です。先行詞は The time で、後ろの every one of us uses a computer は完全な文なので、③ when が正解です。① why は理由、② wherever は「どこで～しても」、④ whatever は「何が～しても・～するものは何でも」を表します。the time when + 完全な文という関係副詞の基本形を確実に身につけておきましょう。

- (129) 正解③:私は、駅近くの小さなカフェで私たちが初めて会った時のことを今でも覚えている。

[解説]この問題は先行詞が省略された when の用法を問う問題です。後ろの we first met at the small café ～ は完全な文で、「私たちが初めて会った時」を表すため、③ when が正解です。① which と② in which は通常、前に明示された先行詞を必要とし、④ what は「もの・こと」を表します。ここでは when = the time when と考えると構造を理解しやすくなります。

- (130) 正解③:その習慣が若者の間で最初に広まったのがいつなのか、正確には誰も知らない。

[解説]この問題は時を表す when の用法を問う問題です。後ろの the custom first became popular among young people は完全な文で、「その習慣がいつ広まったか」という時を表すため、③ when が正解で

関係詞

す。① which と② in which には通常明示された先行詞が必要で、④ what は「何が・何を」を表します。この文の when は knows の目的語となる節を導く疑問副詞と捉えるのが自然です。

続けます。(131)～(155)です。今回も同じスタイル・文字量で統一します。貼り付けたテキスト(1)

(131) 正解④: 私たちが彼女の要求に同意すべきでない理由はいくつかある。

[解説]この問題は理由を表す関係副詞 why を問う問題です。先行詞は several reasons で、後ろの we should not agree to her request は主語・動詞などがそろった完全な文なので、④ why が正解です。① how は方法、② where は場所を表し、③ which は関係代名詞なので後続節に名詞要素の欠落が必要です。the reason why S+V=S が V する理由という基本形を確実に覚えておきましょう。

(132) 正解③: あなたがなぜそれをしたのか、その理由を知りたい。

[解説]この問題は the reason why ～ の形を問う問題です。先行詞は the reason で、後ろの you did it は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、③ why が正解です。① what は先行詞を含む関係代名詞、② which は関係代名詞なので後続節に欠落が必要です。④ how は方法を表します。the reason why ～ では why は for which に相当することも合わせて覚えておきましょう。

(133) 正解③: 私が冷凍庫を持っているのには、いくつかのもっともな理由がある。

[解説]この問題は reason を先行詞とする関係副詞 why を問う問題です。後ろの I have a freezer は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、③ why が正解です。①

when は時、② who は人を先行詞とする関係代名詞、④ whether は「～かどうか」を表す接続詞なので適しません。reason + why + 完全な文という組み合わせをひとかたまりで覚えておきましょう。

(134) 正解③: これが、彼がそれをした理由です。

[解説]この問題は the reason for which ～ の形を問う問題です。「～の理由」は the reason for ～ と表すため、前置詞 for の後ろには関係代名詞③ which を用います。① why は関係副詞なので前置詞 for の直後には置けず、② what は先行詞を含むため the reason と併用できません。④ that も前置詞の直後には置けません。the reason for which ～ = the reason why ～ と覚えておきましょう。

(135) 正解③: だから彼は今日来られないのです。

[解説]この問題は That's why ～ の表現を問う問題です。That's why S+V は「それが S が V する理由だ」から「だから S は V する」という意味になるため、③ why が正解です。① because を用いる That's because ～ は「それは～だからだ」と原因を後ろから説明する表現です。② how は方法、④ the way は「方法」を表します。That's why = だから / That's because = それは～だからを区別しましょう。

(136) 正解④: マイケルはとても一生懸命働く。だから私は彼を尊敬している。

[解説]この問題は結果を導く That's why ～ の用法を問う問題です。前

文 Michael works very hard. が原因で、後ろの I respect him がその結果なので、④ why が正解です。① because を用いると「それは私が彼を尊敬しているからだ」と因果関係が逆になります。② the thing、③ how もこの構造には適しません。原因. That's why+結果. という流れを正確に理解しておきましょう。

- (137) 正解④:時計が壊れていた。だから私は今朝学校に遅刻した。

[解説]この問題は That's why ~ の因果関係を問う問題です。「時計が壊れていた」が原因で、「学校に遅刻した」が結果なので、④ why が正解です。① because は That's because+原因 の形で用いられ、ここでは因果関係が逆になります。② maybe は副詞、③ when は時を表すため適しません。原因 → That's why → 結果という基本的な意味関係を確実に押さえておきましょう。

- (138) 正解②:パットはとてもおしゃべりだ。だから私は彼が好きではない。

[解説]この問題は That's why ~ の表現を問う問題です。前文 Pat is very talkative. が理由・原因で、後ろの I don't like him がその結果なので、② why が正解です。④ because を用いる That's because ~ は後ろに原因を置く表現なので、この文脈では因果関係が逆になります。① what と③ that もこの形では使いません。That's why+結果と That's because+原因を区別しましょう。

- (139) 正解②:彼女は翌朝に大切な試験があった。それが、いつもより早く帰宅

した理由だった。

[解説]この問題は That's the reason (why) ~ の why の省略を問う問題です。空所に② the reason を入れると、That's the reason she went home earlier than usual. となり、reason の後ろの関係副詞 why が省略された形になります。① because では因果関係の表し方が異なり、③ how、④ what も適しません。the reason why S+V では関係副詞 why を省略できることを覚えておきましょう。

- (140) 正解①・②:これが、彼が野球部の一員になるのを妨げている理由です。

[解説]この問題は reason の後ろに置かれる主格の関係代名詞を問う問題です。後ろの prevents him ~ には主語が欠けており、先行詞 the reason 自体が prevent の主語になるため、① that と② which が文法上可能です。③ what は先行詞を含むため the reason と併用できず、④ why は関係副詞なので節内の主語にはなれません。reason の後ろでも、不完全な文なら which / that と判断しましょう。

- (141) 正解②:なぜかまったく予想外にも彼女にそのような寛大な申し出を断らせた理由を、誰も理解できなかった。

[解説]この問題は reason の後ろに置かれる主格の関係代名詞を問う問題です。quite unexpectedly が挿入されていますが、後ろの made her refuse ~ には主語が欠けており、先行詞 the reason がその主語になるため、② that が正解です。① why と④ how は副詞なので主語にはなれ

ず、③ for which では後続節の主語が欠けたままです。挿入語に惑わされず、節の主語の有無を確認しましょう。

- (142) 正解③:このようにして私は小説の書き方を学んだ。

[解説]この問題は先行詞を含む関係副詞 how を問う問題です。③ how は「～する方法」を表し、This is how I learned to write a novel. で「このようにして私は小説を書くことを学んだ」となります。① that は単独ではこの意味を表せず、② whom と④ who は人を表す関係代名詞です。how=the way in which と考え、原則として the way how とはしないことも覚えておきましょう。

- (143) 正解③:コンピューター言語の重要な側面の一つは、データ項目や構造を処理する方法である。

[解説]この問題は the way in which ～ の形を問う問題です。「～する方法」は the way in which S + V と表すことができるため、③ in which が正解です。① for which と② for that は way と結びつく前置詞が不適切で、④ in whom は人を先行詞とする形です。the way の後ろでは in which / that / 省略が可能であることをまとめて覚えておきましょう。

- (144) 正解①・②:政治運動が行われる方法は、国によって大きく異なる。

[解説]この問題は the way の後ろに続く関係詞を問う問題です。the way that political campaigns are conducted と the way in which political campaigns are conducted はともに正しいため、①

that と② in which が文法上可能です。③ when は時を表し、④ how は the way how ～ となるため標準的な英語では用いません。the way+that / in which / 省略の3通りを覚えましょう。

- (145) 正解①:「なぜ毎日昼食を抜くのですか」「そうやって私は体重を減らしているのです。」

[解説]この問題は方法を表す how の用法を問う問題です。That's how S+V は「それが S が V する方法だ」「そうやって S は V する」という意味になるため、① how が正解です。② way を用いるなら That's the way ～ と the が必要です。③ when は時、④ where は場所を表します。
That's how ～ = That's the way (that) ～という対応を覚えておきましょう。

- (146) 正解④:彼がどのようにしてそのような難しい問題をそんなに早く解いたのか、私には理解できなかった。

[解説]この問題は how と the way の表し方を問う問題です。① how、② the way that、③ the way in which はいずれも「～する方法」を表して空所に入れることができます。一方、④ the way how は the way と how がともに「方法」を表して重複するため、標準的な英語では用いません。したがって「入れることができないもの」は④です。how / the way that / the way in which を整理しましょう。

- (147) 正解③:この地域の気候は、私たちが北ヨーロッパで経験した気候と似ている。

[解説]この問題は代名詞 that を先行詞として用いる that which ～ の形を問う問題です。前の the climate の反復を避け、「私たちが経験した気候」を表すため、③ that が正解です。that which we experienced は what we experienced ではなく、ここでは前出の単数名詞 climate を受ける that に which 節が続く構造です。① it、② what、④ one はこのまま which の先行詞としては適しません。

- (148) 正解②:今日の若者が直面している問題は、彼らの親が同じ年齢のころに直面した問題とは異なる。

[解説]この問題は複数名詞の反復を避ける代名詞 those と関係代名詞 which の組み合わせを問う問題です。前の The problems を受けて「彼らの親が直面した問題」を表すため、複数形の② those が正解です。① that は単数、③ what は先行詞を含む関係代名詞、④ them は目的格なので which の先行詞としてこの形では用いません。*単数 that / 複数 those + which ～*を区別しましょう。

- (149) 正解③:この工場の労働条件は、10 年前に存在していた労働条件よりはるかによい。

[解説]この問題は前出の複数名詞を受ける代名詞 those を問う問題です。前の The working conditions は複数なので、その反復を避けて「10 年前に存在した労働条件」を表すには③ those を用います。① that は単数名詞を受け、② them は目的格、④ what は先行詞を含む関係代名詞

なので適しません。those which ～ = ～するそれらのものという構造を理解しておきましょう。

- (150) 正解③:私たちは、自分の目で見るものをいつも信じられるとは限らない。

[解説]この問題は that which ～ = what ～ の書き換えを問う問題です。(A) の that which we see では that が先行詞、which が関係代名詞で、「私たちが見るもの」という意味になります。これを先行詞を含む関係代名詞で表すと③ what となるため正解です。① which と② that は単独では明示された先行詞が必要で、④ how は方法を表します。*that which ～ = what ～*を覚えておきましょう。

- (151) 正解③:最も重要なのは、何を言うかではなく何をするかである。

[解説]この問題は that which ～ = what ～ の書き換えを問う問題です。(B) の What matters most は「最も重要なこと」という意味で、what を「先行詞 + 関係代名詞」に分けると that which matters most となるため、③ That が正解です。ここで that は関係代名詞ではなく「もの・こと」を表す先行詞です。what = the thing(s) which / that which という基本関係を確認しておきましょう。

- (152) 正解②:私たちは、重大な事故につながる可能性のあるそのような誤りを避けるべきだ。

[解説]この問題は指示形容詞 those と複数の先行詞の組み合わせを問う問題です。空所の直後は複数名詞 mistakes なので、「それらの誤り」を

表す② those が正解です。後ろの which may lead ~ が those mistakes を修飾しています。① that は単数名詞に用い、③ what と④ which はこの位置で指示形容詞として複数名詞 mistakes を修飾できません。*those + 複数名詞 + which ~*の形を確認しましょう。

- (153) 正解④:彼の考えは、19 世紀に広く受け入れられていた考えと似ている。

[解説]この問題は指示形容詞 those が複数名詞を限定する形を問う問題です。空所の直後は複数名詞 ideas なので、「それらの考え」を表す④ those が正解です。those ideas which were widely accepted ~ 全体で「広く受け入れられていたそれらの考え」となります。① that は単数、② what と③ which はこの位置で ideas を指示形容詞として限定できません。those + 複数名詞を押さえましょう。

- (154) 正解③:あなたの目的に最も適した方法を選ぶべきだ。

[解説]この問題は指示形容詞 those と複数名詞の組み合わせを問う問題です。空所の直後に複数名詞 methods があり、後ろの which are most suitable ~ がその methods を修飾しているため、③ those が正解です。① that は単数名詞に用い、② what と④ which はこの位置で methods を限定する指示形容詞にはなりません。those methods which ~ = ~するそれらの方法という構造を確認しましょう。

- (155) 正解②:現代の教育は、長い年月をかけて発展してきた原則に基づいて

いる。

[解説]この問題は指示形容詞 those と複数の先行詞を問う問題です。空所の直後は複数名詞 principles なので、「それらの原則」を表す② those が正解です。後ろの which were developed ~ が those principles を修飾しています。① what はこの位置で名詞を限定できず、③ that は単数、④ which も指示形容詞として principles を修飾できません。*those + 複数名詞 + which ~*の形を覚えておきましょう。

- (156) 正解④:私は横浜の郊外に住んでいるが、横浜は日本で 2 番目に大きな都市である。

[解説]この問題は関係代名詞 which の非制限用法を問う問題です。先行詞 Yokohama を補足説明し、後ろの is Japan's second largest city には主語が欠けているため、④ which が正解です。① where は関係副詞なので後ろに完全な文が必要で、② that は原則としてコンマの後ろの非制限用法では使えません。③ what は先行詞を含む関係代名詞です。*固有名詞, which + V ~*の形を確認しましょう。

- (157) 正解④:新聞社で働いた結果、私は将来の夫と出会ったが、彼もそこで働いていた。

[解説]この問題は人を先行詞とする who の非制限用法を問う問題です。先行詞 my future husband を補足説明し、後ろの was also working there には主語が欠けているため、④ who が正解です。①

when は時、② which は物を先行詞とし、③ that は原則として非制限用法では使えません。**人, who + V ~**は「そしてその人は～」という補足説明になることを覚えておきましょう。

(158) 正解②:『ころ』や『坊っちゃん』を書いた夏目漱石は、1867 年に生まれた。

[解説]この問題は人を先行詞とする who の非制限用法を問う問題です。先行詞 Soseki Natsume は人で、後ろの wrote Kokoro and Botchan には主語が欠けているため、② who が正解です。① whom は目的格、③ of which は物を先行詞とする形、④ whose は所有格なので適しません。固有名詞はすでに対象が特定されているため、コンマを用いた非制限用法になることが多い点も重要です。

(159) 正解④:こちらは田中さんで、あなたが昨年会った方です。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞 whom の非制限用法を問う問題です。先行詞 Mr. Tanaka は人で、後ろの you met ~ には met の目的語が欠けているため、④ whom が正解です。① that は非制限用法では使えず、② what は先行詞を含み、③ which は物を先行詞とします。**人, whom + S + V ~**では whom が関係詞節内の目的語になることを確認しましょう。

(160) 正解②:昨冬私は香港へ行ったが、そこは予想していたほど暖かくなかった。

[解説]この問題は関係副詞 where の非制限用法を問う問題です。先行詞

Hong Kong は場所で、後ろには it wasn't as warm as I had expected という完全な文が必要なので、② where it wasn't が正解です。③では wasn't の主語 it がなく、④ which it wasn't では which と it が主語として重複します。① when は時を表します。場所, where + 完全な文という構造を正確に見抜きましょう。

(161) 正解③:彼は田舎に小さな家を買った。そこで人生の最後の日々を過ごした。

[解説]この問題は関係副詞 where の非制限用法を問う問題です。先行詞 a cottage は場所を表し、後ろの he spent the last days of his life は主語・動詞・目的語がそろった完全な文なので、③ where が正解です。① which では節内に欠落が必要で、② when は時、④ why は理由を表します。**a cottage, where ~ = a cottage, in which ~**と考えることができます。

(162) 正解①:昨夜シンディーは東京での新しい仕事について話してくれたが、彼女はその仕事をとても楽しんでいるようだ。

[解説]この問題は目的格の関係代名詞 which の非制限用法を問う問題です。先行詞 her new job を受け、後ろの she appears to be enjoying very much には enjoying の目的語が欠けているため、① which が正解です。② where は場所を表し、③ what は先行詞を含むため併用できません。④ when は時を表します。先行詞に

Tokyo が近くても、節内で欠けている目的語は job であることを見抜きましょう。

- (163) 正解①:彼女には 3 人の息子がいて、その全員が医者になった。

[解説]この問題は 数量詞 + of whom の形を問う問題です。先行詞 three sons は人で、「その 3 人全員」は all of whom と表すため、① of whom が正解です。② which と④ of which は物を先行詞とし、③ who を入れると all who となり、ここで必要な「その全員」という意味になりません。**人, all of whom + V ~ =そしてその全員が~**という非制限用法を覚えておきましょう。

- (164) 正解②:トムには 3 人の娘がいて、その全員が日本の別々の都市に住んでいる。

[解説]この問題は all of whom の形を問う問題です。先行詞 three daughters は人なので、「その全員」を表すには② of whom を用い、all of whom live ~ とします。① of who は前置詞 of の後ろなので目的格 whom が必要です。③ who では all of の構造にならず、④ whom だけでは of が欠けています。数量詞 + of + whom / which では前置詞の後ろに目的格を用います。

- (165) 正解③:私はハイカーの一団に出会ったが、そのうち何人かは大学生だった。

[解説]この問題は some of whom を用いた非制限用法を問う問題です。先行詞 a group of hikers は人を表し、「そのうち何人か」は③ some of whom と表します。① some of

them と② many of them はそれ自体ではコンマの前後を接続できません。④ some of which は物を先行詞とする場合に用います。人なら some of whom、物なら some of which という基本的な使い分けを確認しましょう。

- (166) 正解②:トムには多くの友人がいるが、その多くは彼の学生時代の友人である。

[解説]この問題は many of whom の後ろの文構造を問う問題です。whom は前置詞 with の目的語に当たり、もとの形は he was at school with many of his friends なので、② he was at school with が正解です。③では whom と them が同じ目的語を二重に表しています。①は together の語法が不自然で、④も文構造が成立しません。whom が節内で何の目的語になるかまで確認することが重要です。

- (167) 正解②:彼は私に 2 冊の本を貸してくれたが、私はそのどちらも読んでいない。

[解説]この問題は neither of which の形を問う問題です。先行詞 two books は物なので、「そのどちらも~ない」は neither of which と表し、② which が正解です。① that は前置詞 of の直後には置けず、③ what は先行詞を含む関係代名詞です。④ them ではコンマの前後を関係詞として接続できません。**物, neither of which ~ / 人, neither of whom ~**を覚えておきましょう。

- (168) 正解②:彼らは英語とフランス語だ

けを話したが、彼女はそのどちらも理解できなかった。

[解説]この問題は neither of which を用いた非制限用法を問う問題です。先行詞 English and French は2つの言語、つまり物として扱われるため、「そのどちらも～ない」は② which を用いて neither of which とします。① what は先行詞を含み、③ whose は所有格、④ that は前置詞 of の直後には置けません。neither of which + S + V で「そのどちらも S は V しない」となります。

- (169) 正解④:その病院の2階には予備のベッドが2台あり、どちらも長年使われていない。どちらを使ってもよい。

[解説]この問題は neither of which の意味を問う問題です。後続文 You are welcome to use either one of them. から、2台とも使用されていないことが分かるため、④ neither of which が正解です。① both of which では「両方とも使われた」、② one of which では「一方が使われた」となります。③ all of which は2つを受ける表現として不適切です。neither of + 複数名詞 = どちらも～ないを確認しましょう。

- (170) 正解①:私たちは交通渋滞にはまり、そのため会議に40分遅れた。

[解説]この問題は前の文全体を受ける非制限用法の which を問う問題です。which は直前の a traffic jam だけでなく、We got stuck in a traffic jam という出来事全体を受け、「そのことが～」という意味になるため、① which が正解です。②

that は非制限用法では使えず、③ it ではコンマだけで2つの節を接続できません。④ as はこの位置・意味では適しません。*文全体, which ~ = そしてそのことが～*を覚えましょう。

- (171) 正解④:台風は突然弱まり、それは村にとって朗報だった。

[解説]この問題は前の節全体を受ける which の非制限用法を問う問題です。④ which は The typhoon suddenly became weaker という前の出来事全体を受け、「そのことはよい知らせだった」という意味になります。

① it ではコンマだけで独立した2文を接続できず、② that は非制限用法では使えません。③ what は先行詞を含む関係代名詞です。*前文全体 + , which + V ~*の構造を押さえましょう。

- (172) 正解③:彼はわずか1年で流暢な日本語を話せるようになり、そのことに私は驚いた。

[解説]この問題は前の文全体を受ける非制限用法の which を問う問題です。③ which は「彼がわずか1年で流暢な日本語を話せるようになった」という事実全体を受け、surprised の主語になります。① that は非制限用法では使えず、② who は人を先行詞とします。④ it ではコンマだけで2つの独立節を結べません。which = and this / and that の感覚で理解するとよいでしょう。

- (173) 正解①:彼はロシア語を話せないと言ったが、それは事実ではなかった。
[解説]この問題は前の発言内容全体を受ける which の用法を問う問題です。① which は he couldn't

speak Russian という直前の内容全体を受け、「そのことは事実ではなかった」という意味になります。② what は先行詞を含む関係代名詞、③ why は理由、④ how は方法を表すため適しません。*前節全体、which ~*では which が「そのこと」という意味で前文全体を受けることがあります。

(174) 正解②: 繁華街には駐車できる場所がほとんどなく、それが実に問題である。

[解説]この問題は前の文全体を受ける非制限用法の which を問う問題です。「繁華街に駐車場所がほとんどない」という事実全体を受けて「そのことが問題だ」とするため、② which が正解です。① that はコンマの後ろの非制限用法では使えず、③ who と④ whom は人を先行詞とします。直前の places だけでなく、前の内容全体を which が受けていることがポイントです。

(175) 正解③: 繁華街には駐車場所がほとんどなく、それが実に問題である。

[解説]この問題も前の節全体を受ける which の非制限用法を問う問題です。③ which は There are few parking places downtown という事実全体を受け、「そのことが本当に問題だ」という意味になります。① what は先行詞を含む関係代名詞、② where は場所を表す関係副詞、④ who は人を先行詞とします。コンマ+which が前文全体を受ける用法を確実に見抜きましょう。

(176) 正解②: 私はその川を泳いで渡ろうとしたが、それはかなり難しいと分かった。

[解説]この問題は前の内容を受けながら、関係詞節内で目的語となる which を問う問題です。② which は to swim across the river という行為を受けると考えられ、後ろの I found ~ quite difficult では found の目的語が欠けています。① where と③ when は副詞なので目的語にはなれず、④ on which も find の語法に合いません。find O C の O に which が入る構造を見抜きましょう。

(177) 正解③: 仮に私が裕福であっても——実際にはそうではないが——私は毎日働きに行くだろう。

[解説]この問題は前の内容を受ける非制限用法の which を問う問題です。③ which は前の Were I wealthy の wealthy という内容を受け、which I'm not で「実際にはそうではないが」という挿入的な意味になります。① so はこの関係詞構造を作れず、② what は先行詞を含みます。④ while では「一方で」という接続詞となり、空所後の構造に合いません。which+S+be not の挿入表現にも注意しましょう。

(178) 正解①: 私は入浴するように言われ、その助言に従った。

[解説]この問題は which+名詞 の非制限用法を問う問題です。前文の「入浴するように」という内容を advice として受け、① which advice で「その助言を」という意味になります。which はここでは名詞 advice を限定する関係形容詞として働いています。② whose は所有関係、③ its は節を接続できず、④

what は先行する内容をこの形では受けられません。*which+名詞=その～*という特殊な用法を覚えておきましょう。

- (179) 正解④:私は徒歩ではなくバスで行くように言われ、その助言に従った。
[解説]この問題は前文の内容を which+名詞 で受ける用法を問う問題です。前文の「徒歩ではなくバスで行くように」という内容全体を advice としてまとめ、④ which advice で「その助言に」という意味になります。① consequently、② however、③ though はいずれも接続副詞・接続詞で、後ろの I followed の目的語にはなりません。which advice=その助言のように、which が形容詞的に名詞を修飾する用法を確認しましょう。
- (180) 正解①:彼の髪は白くなりかけており、その事実が妻を大いに悩ませた。
[解説]この問題は which+名詞 で前文全体を受ける用法を問う問題です。前文 His hair was going gray. という内容を fact として受け、① which fact で「その事実」という意味になります。② what はこのように前文を先行内容として受けられず、③ that は非制限的に前文を受ける関係詞として使えません。④ its は節を接続する働きがありません。which fact=and this fact と考えると分かりやすいでしょう。

- (181) 正解④:嵐は一晩中荒れ狂い、その間、登山者たちは救助されるのを待っていた。
[解説]この問題は during which time の形を問う問題です。前文の

all night という時間を受けて、「その間に」を during which time と表すため、④ which が正解です。① that は前置詞 during の直後でこの非制限用法には使えず、② when は関係副詞なので during の目的語にはなりません。③ whose は所有格です。during which time=そしてその間にという表現を覚えておきましょう。

- (182) 正解④:医師は、その患者が回復するには少なくとも 2 週間必要で、その後は仕事に戻れるだろうと言った。
[解説]この問題は after which time の形を問う問題です。前の at least two weeks という期間を受け、「その期間の後で」を after which time と表すため、④ which が正解です。① that は前置詞 after の直後の関係代名詞としてこの非制限用法では使えず、② when は関係副詞、③ whose は所有格です。after which time=その期間の後でという形を確認しましょう。

- (183) 正解②:彼は今日来ないかもしれない。その場合には、あなたから彼に電話したほうがよい。
[解説]この問題は in which case 「その場合には」という表現を問う問題です。前文 He might not come today. という可能性を受けて、「もしそうなら」という意味を表すため、② in which case が正解です。① which だけでは後ろの文との関係を適切に表せず、③ where は場所、④ whom は人を表します。前文, in which case S+V=その場合には S は V するをひとかたまりで覚えましょう。

(184) 正解②:私は仕事をしなければなら
ないかもしれない。その場合には、あ
なたに電話します。

[解説]この問題も in which case
の用法を問う問題です。「仕事をしな
ければならないかもしれない」という前
文全体を受け、「その場合には電話す
る」と続いたため、② in which case が
正解です。① for which は「そのた
めに」、③ whereby は「それによっ
て」、④ wherefore は「それゆえに」
という意味で、この文脈には適しません。
in which case = if that
happens と考えると分かりやすいで
しょう。

(185) 正解②:デレクは、外国語を学ぶ
のに理想的な環境を見つけた。

[解説]この問題は 前置詞＋関係代
名詞＋to 不定詞 の形を問う問題で
す。「その環境で外国語を学ぶ」は
learn foreign languages in the
environment なので、② in which
to learn foreign languages が正
解です。①は to be learned の前に
意味上の主語 foreign languages
を不自然に置き、③は名詞を後置修飾
する形として不適切です。④は in が
重複します。in which to V=そこで
V するためのを覚えましょう。

(186) 正解③:子どものころ、デレクは外
国語を学ぶのに理想的な環境に置か
れていた。

[解説]この問題も 前置詞＋関係代名
詞＋to 不定詞 を問う問題です。「そ
の環境で外国語を学ぶ」という意味な
ので、③ in which to learn
foreign languages が正解です。
①は to learn の目的語 foreign

languages の位置が不自然で、②
では environment と which の
関係を示す前置詞 in がありません。
④は文法的な節を作れますが、「学ぶ
ための環境」という問題の狙いである
不定詞構文になりません。
environment in which to Vを押
さえましょう。

(187) 正解③:彼は眠る場所を探した。

[解説]この問題は 前置詞＋関係代
名詞＋to 不定詞 の形を問う問題で
す。「その場所で眠る」は sleep in
the place なので、③ in which to
sleep が正解です。① for how to
sleep は「眠る方法のために」のよう
になり不自然で、② in where は前
置詞 in と関係副詞 where を重ね
ています。④ for where も正しい関
係詞構造ではありません。a place in
which to V=V する場所という形を
覚えておきましょう。

(188) 正解②:彼女には、将来の計画に
ついて話す相手が必要だった。

[解説]この問題は 前置詞＋whom
＋to 不定詞 の形を問う問題です。
「人と話す」は talk with 人 なので、
「話す相手」は② with whom to
talk と表します。① whom to talk
では talk に必要な前置詞がなく、③
では前置詞 with の後ろなので
who ではなく whom が必要です。
④は whom と him が同じ目的語
を重複して表しています。someone
with whom to talk=話し相手を覚
えましょう。

(189) 正解②:その管理者には、助言を
求めて頼ることのできる経験豊かな従
業員が何人かいた。

[解説]この問題は 前置詞 + whom + to 不定詞 と turn to 人 for ~ の語法を問う問題です。「人に助言を求める」は turn to 人 for advice と表すため、② to whom to turn が正解です。①では turn に必要な to がなく、③は前置詞 to の後ろなので who ではなく whom が必要です。④は whom と them が重複します。someone to whom to turn = 頼ることのできる人と覚えましょう。

- (190) 正解③:最初は簡単そうに見えることが、しばしば難しいと分かる。

[解説]この問題は先行詞を含む関係代名詞 what を問う問題です。③ What は the thing that / which 「～するもの・こと」の意味を表し、What seems easy at first 全体が主語になります。① It は後ろの seems と合わせても turns out の主語となる節を作れず、② That、④ Which には先行詞が必要です。what + V ~ = ~するもの・ことという基本を確実に押さえましょう。

- (191) 正解③:最初は簡単そうに見えることが、しばしば難しいと分かる。

[解説]この問題も関係代名詞 what の基本用法を問う問題です。③ What は先行詞を含み、What seems easy at first で「最初は簡単そうに見えるもの」という名詞節を作り、文全体の主語になります。① It と② That ではこの名詞節を作れず、④ Which は通常、明示された先行詞を必要とします。what = the thing(s) which / that と置き換えて考えると分かりやすくなります。

- (192) 正解③:彼にとって最も重要な

は、卒業後にどこで働くかということだ。

[解説]この問題は関係代名詞 what が主語となる名詞節を作る用法を問う問題です。③ What matters most to him で「彼にとって最も重要なこと」という意味になり、全体が is の主語になります。① The thing だけでは matters 以下を結ぶ関係詞がなく、② When は時、④ How は方法を表します。what matters most = 最も重要なことは入試でも頻出の表現として覚えておきましょう。

- (193) 正解③:私を最もいら立たせたのは、彼の私に対する話し方だった。

[解説]この問題は関係代名詞 what が主語となる用法を問う問題です。③ What irritated me the most で「私を最もいら立たせたもの・こと」という名詞節になり、文全体の主語として働きます。① How は方法、② That と④ Which はこの形では先行詞が必要です。what + 動詞 = ~するもの・ことであり、what 自身が関係詞節内の主語になる場合もあることを確認しましょう。

- (194) 正解③:私が今あなたに言ったことを覚えておきなさい。大人になったとき、とても重要になるでしょう。

[解説]この問題は関係代名詞 what が目的語となる名詞節を作る用法を問う問題です。③ what I've just told you で「私がたった今あなたに話したこと」となり、全体が Remember の目的語になります。① as はこの名詞節を作れず、② that と④ which は先行詞なしではここで「～すること」の意味を表せません。what S + V = S が V するもの・ことという基本形を確

認しましょう。

- (195) 正解④:彼は稼いだものを息子のために使う。

[解説]この問題は関係代名詞 what が先行詞を含んで目的語となる用法を問う問題です。④ what he earns は「彼が稼ぐもの＝彼が稼いだお金」という意味で、全体が spends の目的語になります。① as と② but はこの名詞節を作れず、③ that は明示された先行詞を必要とします。what S earns=S が稼ぐもの・金額のように、what は文脈に応じて具体的な内容を表します。

- (196) 正解③:あなたの言うことについては、私はあなたに賛成です。

[解説]この問題は前置詞の目的語となる関係代名詞 what を問う問題です。③ what you say で「あなたが言うこと」という名詞節を作り、前置詞 in の目的語になります。① who は人を表し、② which と④ that はこの形では明示された先行詞を必要とします。前置詞+what S+V も可能で、what 節全体が名詞として働くことを覚えておきましょう。

- (197) 正解①:日本人が毎日食べているものの大部分は、外国から輸入されている。

[解説]この問題は of+what 節の構造を問う問題です。① what the Japanese eat every day で「日本人が毎日食べるもの」という名詞節になり、a large portion of ～ の of の目的語となります。② that と③ which は先行詞がなく、④ where は場所を表すため適しません。a portion of what S+V=S が V す

るものの一部という構造を正確に見抜きましょう。

- (198) 正解②:英語を話す人々がテレビで見るものの大部分は、輸入されたものである。

[解説]この問題は what+S+V が名詞節を作る用法を問う問題です。② what English-speaking people watch on television で「英語圏の人々がテレビで見るもの」という意味になり、全体が前置詞 of の目的語になります。① that と④ which には明示された先行詞が必要で、③ where は場所を表します。what は先行詞を自身の中に含むため、その前に先行詞を置かないことが重要です。

- (199) 正解②:英語を話す人々がテレビで見るものの大部分は、アメリカ由来のものである。

[解説]この問題も a large proportion of what S+V の構造を問う問題です。② what English-speaking people watch on TV で「英語圏の人々がテレビで見るもの」となり、of の目的語として働きます。① that と④ which は先行詞なしではこの意味の名詞節を作れず、③ where は場所を表します。what=the thing(s) which と置き換えれば、節の構造を確認しやすくなります。

- (200) 正解③:理解とは、理論・実践・謙虚さから育つ、物事の本質に迫る知識である。

[解説]この問題は that which ～の構造を問う問題です。③ that which では、that が「もの・こと」を表す先行詞、which が関係代名詞となり、that penetrating

knowledge which grows ～ に近い意味関係で「～から育つ深い知識」を表します。① that だけでは後続する penetrating knowledge との構造が不十分で、② that the も文構造が成立しません。④ what は通常その直後にこのような名詞句を置きません。that which ～＝～するものという形を確認しましょう。

- (201) 正解②:読書の精神に対する関係は、食物の身体に対する関係と同じである。

[解説]この問題は A is to B what C is to D「AとBの関係はCとDの関係と同じだ」という構文を問う問題です。したがって② what が正解です。Reading : the mind=food : the body という対応関係を表しています。① that、③ which、④ though ではこの比例・類比の構文を作れません。A is to B what C is to D=A : B = C : D と覚えておきましょう。

- (202) 正解③:科学者にとっての事実は、詩人にとっての言葉のようなものだ、しばしば言われてきた。

[解説]この問題も A is to B what C is to D の類比構文を問う問題です。facts : the scientist=words : the poet という対応を表すため、③ what が正解です。① for、② of は前置詞でこの対応関係を作れず、④ which もこの構文には用いません。「科学者が事実を材料とするように、詩人は言葉を材料とする」という意味です。what が「～と同じ関係」を表す特殊構文として覚えましょう。

- (203) 正解④:メアリーは、持っていたわずかなお金をすべて失った。

[解説]この問題は what little + 不可算名詞 の構文を問う問題です。④ what little money she had は「彼女が持っていたわずかなお金すべて」という意味になります。① which と② whose では先行詞が必要で、③ how は how little money なら「どれほど少ないお金」という程度を表しますが、この文の目的語としては適しません。what little + 不可算名詞 + S + V = S が持つわずかな～すべてと覚えましょう。

- (204) 正解①:私は田舎に住んでいる兄に、そのとき持っていたわずかなお金をすべて送った。

[解説]この問題は what little + 不可算名詞 の用法を問う問題です。① what little money I had で「私がそのとき持っていたわずかなお金すべて」という意味になり、sent の直接目的語として働きます。② where は場所、③ which は先行詞が必要で、④ whom は人を表します。*what little ～*には「少ないながらも存在するそのすべて」という含みがあることを押さえましょう。

- (205) 正解③:彼女は、持っていたわずかなお金をすべて失った。

[解説]この問題も what little + 不可算名詞 の構文を問う問題です。③ what little money she had で「彼女が持っていたわずかなお金すべて」という意味になります。① how を用いると程度を表す疑問・感嘆の形になり、② those は複数名詞に用いるため money には合いません。④ which には先行詞が必要です。*what little money = the little

money that ~**という対応も覚えておきましょう。

- (206) 正解④:どうぞ遠慮なく私に連絡してください。できる限りの援助をするつもりです。

[解説]この問題は what + 名詞 + S + V の形を問う問題です。④ what help I can は「私にできるだけ援助」「できる限りの援助」という意味になります。what はここで help を限定しながら、節全体を give の目的語にしています。① that と② which はこの形では先行詞が必要で、③ whose は所有格です。**what + 名詞 + S can = S にできるだけ～**という表現を覚えておきましょう。

- (207) 正解③:彼は、数少ない友人をみな誕生日パーティーに招待した。

[解説]この問題は what few + 複数名詞 の構文を問う問題です。③ what few friends he had で「彼が持っていた数少ない友人すべて」という意味になり、invited の目的語になります。① which と② whose は先行詞を必要とし、④ how は程度を表します。不可算名詞なら what little ～、可算複数名詞なら what few ～ とするのがポイントです。

- (208) 正解②:彼が持っていた数少ない本は、すべて火事で焼失した。

[解説]この問題も what few + 複数名詞 を問う問題です。② What few books he owned で「彼が所有していた数少ない本すべて」という意味になり、全体が were destroyed の主語です。① Which には選択範囲や先行する内容が必要で、③ How は程度、④ Whose は所有を表しま

す。**what few books = the few books that ~**と置き換えて考えると分かりやすいでしょう。

- (209) 正解③:ジャックが今日の彼であるのは、妻の支えのおかげである。

[解説]この問題は what S is「現在のS・S の現在の姿」という表現を問う問題です。③ what he is で「現在の彼・今日の彼」という意味になり、owe A to B = A を B のおかげとすると組み合わせられています。① as、② that、④ which ではこの名詞節を作れません。S owes what S is to ～ = S が今日あるのは～のおかげだは重要な定型表現として覚えておきましょう。

- (210) 正解③:今日のあなたがあるのは両親のおかげだということを、決して忘れてはいけない。

[解説]この問題も owe what S is to ～ の構文を問う問題です。③ what you are は「現在のあなた・今日のあなた」という意味で、you owe what you are to your parents で「今日のあなたがあるのは両親のおかげだ」となります。① that、② where、④ why はこの位置で名詞節を作れません。what S is = 現在のS の姿・状態という意味を確実に押さえましょう。

- (211) 正解②:アメリカの影響がなければ、日本文化は今日のようなものにはなっていなかっただろう。

[解説]この問題は what S is が「現在のS の姿」を表す用法を問う問題です。② what it is today で「今日のその姿 = 今日あるような日本文化」という意味になります。① that と④ which では先行詞なしにこの名詞節

を作れず、③ when は時を表します。
be what S is today=今日のSの
ような状態であるという形を理解して
おきましょう。

- (212) 正解②:この町は 20 年前の姿と
は大きく異なっている。

[解説]この問題は what S was「か
つての S の姿」という表現を問う問題
です。② what it was twenty
years ago で「20 年前のこの町の姿」
という意味になり、前置詞 from の目
的語になります。① that と④ which
は先行詞が必要で、③ when は「20
年前だった時」という意味になり文構
造に合いません。S is different
from what S was ~ = S は ~ 年前
とは異なるという形を覚えましょう。

- (213) 正解②:現在の日本は、20 年前の
日本とは大きく異なっている。

[解説]この問題も what S was の
用法を問う問題です。② what she
was twenty years ago で「20 年
前の日本の姿」という意味になります。
ここで she は Japan を受けていま
す。① the condition だけでは後ろ
の she was ~ と接続できず、③
which と④ in which も先行詞や
文構造が合いません。what S was =
以前の S の姿・状態と捉えるのがポイ
ントです。

- (214) 正解①:あの未熟な少年たちを、
本来あるべき姿にするために、あなた
には何ができますか。

[解説]この問題は what S should
be「S が本来あるべき姿」を問う問題
です。① what they should be で
「彼らが本来そうあるべきもの・姿」と
いう意味になり、make O C の補語と

して働きます。② who は「誰」、③
that は先行詞が必要で、④ why は
理由を表します。make A what A
should be = A を本来あるべき姿に
するという表現を覚えておきましょう。

- (215) 正解③:その静かな村は、もはや
昔のような村ではない。

[解説]この問題は what S used to
be「かつての S の姿」という表現を問
う問題です。③ what it used to be
で「かつてのその村の姿」という意味に
なり、is no longer ~ の補語になり
ます。① that と② which には先行
詞が必要で、④ how は方法・状態の
程度を表すため適しません。S is no
longer what S used to be = S は
もはや昔の S ではないという頻出表現
を覚えましょう。

- (216) 正解④:現代の学校は、昔の学校
とはかなり異なっている。

[解説]この問題も what S used to
be の用法を問う問題です。④ what
they used to be で「かつての学校
の姿」という意味になり、different
from の目的語として働きます。①
which と② that は先行詞が必要で、
③ where は場所を表す関係副詞な
ので適しません。different from
what S used to be = S の昔の姿と
は異なるという形をまとめて覚えてお
きましょう。

- (217) 正解③:あなたが誰であるかは問
題ではない。誰もが同じ規則に従わな
ければならない。

[解説]この問題は who S is「S が誰
であるか」という間接疑問を問う問題
です。人の身元・立場を問題にしてい
るため、③ who が正解です。①

what you are は「あなたが何者であるか・どのような人間か」と職業・性質などを表すのが基本で、ここでは個人の身元を表す who が自然です。② which は限定された選択、④ whom は補語には用いません。who = 誰、what = 何者・どんなものを区別しましょう。

- (218) 正解②: ジョンはいわゆる教養人である。

[解説]この問題は what is called ~「いわゆる～」という表現を問う問題です。② what は先行詞を含む関係代名詞で、what is called a man of culture は「教養人と呼ばれているもの=いわゆる教養人」という意味になります。① that と③ which は先行詞が必要で、④ who ではこの定型表現になりません。what is called A=いわゆる A は頻出表現として覚えておきましょう。

- (219) 正解②: ジョンはいわゆる教養人である。

[解説]この問題も what is called ~ の定型表現を問う問題です。② what を入れて John is what is called a man of culture. とすると、「ジョンはいわゆる教養人だ」という意味になります。① that と③ which は明示された先行詞を必要とし、④ who では「いわゆる」の意味を表せません。what is called = what we call = いわゆるという対応も合わせて覚えましょう。

- (220) 正解③: 彼はいわゆる独力で成功した人である。

[解説]この問題は what is called A「いわゆる A」を問う問題です。③

what を入れた what is called a self-made man で「いわゆる立志伝中の人物・独力で成功した人」という意味になります。① that と② which は先行詞なしでは使えず、④ who は人を表しますが、この定型表現は作れません。be what is called A = いわゆる A であるをひとかたまりで覚えましょう。

- (221) 正解③: 彼女の趣味はいわゆる C だった。

[解説]この問題は what is called ~ の表現を問う問題です。③ what を入れて what is called C とすれば、「いわゆる C」となり、Her hobbies の補語として働きます。① that と② which は先行詞が必要で、④ whom は人を表す目的格なので適しません。what は the thing(s) which の意味を含み、**what is called ~ = いわゆる ~ ** というまとまりを作ります。

- (222) 正解②: これが、いわゆるノルマン征服である。

[解説]この問題は what is called ~ の定型表現を問う問題です。② what を入れて This is what is called the Norman Conquest. とすると、「これがいわゆるノルマン征服である」という意味になります。① which と③ that は明示された先行詞を必要とします。④ whatever は「～するものは何でも」という意味になり、この文脈には適しません。This is what is called A. = これがいわゆる A だと覚えましょう。

- (223) 正解①: 火を起こすことや車輪の発見に次いで、いわゆる文明の最大の

発明は、人間の男性を家庭生活に適応させたことであった。

[解説]この問題は what we call + 名詞「私たちが～と呼ぶもの、いわゆる～」を問う問題です。① what we call civilization で「私たちが文明と呼ぶもの＝いわゆる文明」という意味になります。② how we call は「どのように呼ぶか」となり、call の目的語も欠けています。③ which is called と④ that called もこの名詞句を作れません。what we call A = what is called A = いわゆる A と整理しておきましょう。

- (224) 正解③:暗くなりかけていた。さらに悪いことに、私たちはホテルを見つけれなかった。

[解説]この問題は挿入表現 what is worse「さらに悪いことには」を問う問題です。③ what を入れて what was worse とすると、「さらに悪いことには」という意味になります。① which と② that は先行詞が必要で、④ but は接続詞なので was worse の主語にはなれません。what is / was worse = さらに悪いことにはという定型表現を覚えておきましょう。

- (225) 正解③:暗くなりかけていた。さらに悪いことに、私たちはホテルを見つけれなかった。

[解説]この問題も what was worse の定型表現を問う問題です。③ what は「さらに悪いこと」という意味の名詞節を作り、後ろの内容を付け加えています。① which と② that には先行詞が必要で、④ but を入れても but was worse となり文構造が成立しません。*and what is

worse, ~ = しかもさらに悪いことには～**とひとかたまりで覚えましょう。

- (226) 正解①:寒かった。さらに悪いことに、暖房が故障した。

[解説]この問題は what was worse「さらに悪いことには」という表現を問う問題です。① what を入れると and what was worse, the heater broke down となり、前の悪い状況にさらに悪い内容を追加します。② but は主語になれず、③ whatever は「何であろうと」、④ that は先行詞を含みません。what is worse / what was worse は文全体を修飾する挿入表現として覚えましょう。

- (227) 正解③:その日は雨で、さらに悪いことに嵐だった。

[解説]この問題も what was worse の表現を問う問題です。③ what を入れて and what was worse, stormy とすると、「さらに悪いことに、嵐だった」という意味になります。① so、② such はこの位置で was worse の主語になれず、④ which には先行詞が必要です。what is worse = さらに悪いことにはは、前の内容に一層悪い事柄を付け加える表現です。

- (228) 正解②:それを覚えておくべきだし、そのうえ、正しく理解しておくべきだ。

[解説]この問題は追加を表す what's more「そのうえ、さらに」を問う問題です。② what's more は what is more の短縮形で、前の内容にさらに重要な内容を加える表現です。① nevertheless は「それにもか

かわらず」、③ however は「しかしながら」、④ on time は「時間どおりに」なので意味が合いません。what's more = in addition / moreover と覚えておきましょう。

- (229) 正解①: この靴は高価で、そのうえ小さすぎる。

[解説] この問題は what is more と同じ意味を表す語を問う問題です。what is more は「そのうえ、さらに」という追加を表すため、① besides が正解です。② concerning は「～に関して」、③ despite は「～にもかかわらず」、④ however は「しかしながら」と逆接を表します。what is more = besides = moreover = さらに、そのうえという対応を覚えておきましょう。

- (230) 正解①: 彼は有名な学者であり、そのうえ才能のある詩人でもある。

[解説] この問題は what is more 「そのうえ、さらに」という定型表現を問う問題です。① what を入れて and what is more とすると、前の内容にもう一つの長所を付け加える意味になります。② who は人を表す関係代名詞、③ that と④ which は先行詞が必要で、この定型表現には用いられません。*and what is more, ~ = そのうえ~*をそのまま覚えておきましょう。

- (231) 正解②: これは役に立つ本であり、そのうえ高くない。

[解説] この問題も what is more の表現を問う問題です。② what を入れて and what is more, it is not expensive とすると、「そのうえ、高くない」と前の長所に別の長所を加え

ます。① that と③ this では ~ is more がこの意味の挿入表現にならず、④ where は場所を表します。what is more = さらに、そのうえという追加表現を確実に覚えましょう。

- (232) 正解②: その地位には、彼女が十分に有能だと考えた男性が就いた。

[解説] この問題は 連鎖関係代名詞を問う問題です。she thought を挿入部分として外すと a man who was thoroughly competent となるため、② who が正解です。who は thought の目的語ではなく、was thoroughly competent の主語として働いています。④ whom を選びたくなりますが、関係詞節内での本来の役割は主格です。S think を外して文構造を確認するのがポイントです。

- (233) 正解④: 私がそうだと思っていたその男性は、あなたの兄が間違った人物であることを証明した。

[解説] この問題は who I thought was ~ という連鎖関係代名詞を問う問題です。I thought を挿入部分として除くと the man who was ~ という主格の構造が見えるため、④ who I thought was が正解です。③ whom は thought の目的語のように見えますが、who は本来 was の主語です。①②は語順が成立しません。*who + S think + V ~*では who の格を後ろの V との関係で判断しましょう。

- (234) 正解①: 私がきつと反対するだろうと思っていた男性からは、異議が出なかった。

[解説] この問題は 連鎖関係代名詞 who を問う問題です。I thought を

取り除くと the man who was sure to protest となり、関係代名詞は was の主語なので① who が正解です。② whom は目的格、③ of whom と④ by whom は前置詞を伴いますが、後ろの was sure の主語を補えません。I think / I thought などをいったん外して格を判断するのが鉄則です。

- (235) 正解①:この人が、車を盗んだと彼らが言っている男性です。

[解説]この問題は who they say stole ~ という連鎖関係代名詞を問う問題です。they say を挿入部分として外すと the man who stole the car となるため、① who が正解です。② whom は目的格なので stole の主語にはなれません。③ whoever と④ whomever は先行詞を自身に含む複合関係代名詞なので、先行詞 the man と併用できません。who は stole の主語と判断しましょう。

- (236) 正解③:あの人、子猫を助けたと私が思う人物です。

[解説]この問題は who I think rescued ~ という連鎖関係代名詞を問う問題です。I think を外すと the one who rescued the kitten となるため、③ who が正解です。④ whom は目的格ですが、関係代名詞は rescued の主語なので使えません。① what は先行詞を含むため the one と併用できず、② where は場所を表します。挿入された I think を除いて主格・目的格を判断することが重要です。

- (237) 正解①:彼女は、次のオリンピック

で金メダルを取ると私たちが考えている有望な水泳選手です。

[解説]この問題は who we think will win ~ の連鎖関係代名詞を問う問題です。we think を取り除くと a promising swimmer who will win ~ となり、関係代名詞は will win の主語なので① who が正解です。② whom は目的格、③ which は物、④ whose は所有格です。who + S think + 助動詞 + V では、who が助動詞以下の主語になっていることを確認しましょう。

- (238) 正解③:多くの専門家がその賞を受賞するだろうと考えているその若い科学者は、もう一本重要な論文を発表した。

[解説]この問題は who many experts believe will receive ~ という連鎖関係代名詞を問う問題です。many experts believe を外すと the young scientist who will receive the award となるため、③ who が正解です。① whom は目的格、② whose は所有格、④ which は物を先行詞とします。believe の目的語に見えても、実際には will receive の主語である点がポイントです。

- (239) 正解②:チームを勝利に導くと私が確信しているその選手は、ついにけがから回復した。

[解説]この問題は who I am sure will ~ の連鎖関係代名詞を問う問題です。I am sure を挿入部分として外すと the player who will lead the team ~ となり、関係代名詞は will lead の主語なので② who が

正解です。① whom は目的格、③ whose は所有格、④ which は物を表します。I am sure / I believe / I think などが挿入されても、後続節での格を見抜きましょう。

- (240) 正解②:私がその仕事に最適な人物だと思っていた男性は、その申し出を断った。

[解説]この問題は think O to be C と目的格関係代名詞を組み合わせた問題です。もとの形は I thought the man to be the best person for the job なので、the man は thought の目的語となり、② whom が正解です。① who は主格、③ whose は所有格、④ which は物を先行詞とします。whom I thought to be C では whom が to be の意味上の主語であると同時に thought の目的語になります。

- (241) 正解④:私たちは最終的に、誰もがそのプロジェクトを率いるのに最も有能だと考えていた候補者を任命した。

[解説]この問題は believe O to be C と目的格関係代名詞を問う問題です。もとの形は everyone believed the candidate to be the most capable ~ なので、candidate は believed の目的語となり、④ whom が正解です。① who は主格、② whose は所有格、③ which は物を先行詞とします。whom + S believe + to be C では whom が believe の目的語になることを確認しましょう。

- (242) 正解③:あなたは、自分が正しいと思うことをしていますか。

[解説]この問題は what + S think

+ V ~ という連鎖関係詞の構造を問う問題です。you think を挿入部分として外すと what is right「正しいこと」となるため、③ you think is right が正解です。①では you が重複し、②では it が what と同じ役割を重複して表します。④も語順が成立しません。what [you think] is right と区切り、what が is の主語であることを見抜きましょう。

- (243) 正解③:彼女は最終的に、自分がその問題に対する最善の解決策になると考えたものを選んだ。

[解説]この問題は what + S believe + V ~ の連鎖構造を問う問題です。she believed を外すと what would be the best solution ~ となり、③ what が正解です。what は先行詞を含み、「～するもの」という名詞節を作って chose の目的語になります。① that と② which は先行詞が必要で、④ whom は人を表します。*what [S believe] will / would be ~*という構造を押さえましょう。

- (244) 正解④:その会社は、成功する新規プロジェクトになると私たちが確信していたものを断念した。

[解説]この問題は what + S be sure + V ~ の連鎖関係詞を問う問題です。we were sure を挿入部分として外すと what would become a successful new project となるため、④ what が正解です。what は先行詞を含み、節全体が abandoned の目的語になります。① which と② that は先行詞が必要で、③ whom は人を表します。*what

[S be sure] would V ～**と区切って構造を見抜きましょう。

- (245) 正解④: 面と向かって私をほめるような人たちを、私は信用できない。

[解説] この問題は such ～ as ... の構文を問う問題です。④ such を入れて such men as praise me ～ とすると、「私をほめるような人々」という意味になります。ここで as は関係代名詞として praise の主語になっています。① who では後ろの as が余り、② big、③ no も構造に合いません。such + 名詞 + as ～ = ～するような名詞を覚えましょう。

- (246) 正解②: 生徒たちには、勉強への意欲を高めるような本を読ませなさい。

[解説] この問題は such + 名詞 + as ～ の関係代名詞 as を問う問題です。such books が先行詞で、後ろの will promote ～ には主語が欠けているため、② as が正解です。① which は通常の関係代名詞ですが、ここでは such と呼応する as が求められます。③ but、④ whom も適しません。such A as ～ = ～するような A では as が主格・目的格の働きをすることがあります。

- (247) 正解④: 彼女は、あなたが想像しているほど悪い女の子ではない。

[解説] この問題は such ～ as ... の構文を問う問題です。④ as を入れて not such a bad girl as you imagine とすると、「あなたが想像するような悪い女の子ではない」となります。as は imagine の目的語に相当する関係代名詞です。① that、② but、③ who は such と呼応するこの構文には適しません。**such a +

形容詞 + 名詞 + as ～**の語順にも注意しましょう。

- (248) 正解③: これは、父が以前身につけていたのと同じような時計です。

[解説] この問題は the same ～ as ... の関係代名詞 as を問う問題です。③ as を入れて the same watch as my father used to wear とすると、「父が以前していたのと同じような時計」となります。① that を用いる the same ～ that ... は文脈によって「まさに同一のもの」を強く表しますが、本問は as の構文を問う設定です。② which、④ what も the same と呼応する形ではありません。**the same A as ～**を押さえましょう。

- (249) 正解②: 彼は、私が数年前にしたのとまったく同じような間違いをした。

[解説] この問題は the same ～ as ... の構文を問う問題です。② as を入れて exactly the same mistake as I had made ～ とすると、「私が以前したのとまったく同じような間違い」という意味になります。① which は the same と呼応せず、③ what は先行詞を含むため mistake と併用できません。④ than は比較級と結びつきます。**the same + 名詞 + as ～**を覚えておきましょう。

- (250) 正解①: 彼にはよくあることだが、仕事を休んだ。

[解説] この問題は非制限用法の関係代名詞 as を問う問題です。As is often the case with him は「彼にはよくあることだが」という定型表現なので、その意味に最も近い① usual

が正解です。② rare は「まれな」、③ sad は「悲しい」、④ inevitable は「避けられない」です。as is often the case with ～＝～にはよくあることだがは頻出表現としてそのまま覚えましょう。

(251) 正解②:彼にはいつものことだが、犬を散歩に連れ出した。

[解説]この問題は非制限用法の関係代名詞 as を問う問題です。② As を入れて As was usual with him とすると、「彼にはいつものことだったが」という意味になります。① It では後ろの主節とコンマだけで接続できません。③ What はこのように前後の内容を受けられず、④ Who は人を先行詞とします。As was usual with ～＝～にはいつものことだったと覚えましょう。

(252) 正解④:天才にはよくあることだが、彼はしばしば日付を忘れる。

[解説]この問題は As is often the case with ～ の定型表現を問う問題です。④ As は後ろの主節全体の内容を受け、「～にはよくあることだが」という意味を表します。① Which は通常このように文頭から後続する主節全体を受けられません。② Such、③ So も構造が成立しません。as は非制限用法で文全体を受け、しかも文頭にも置けることが重要です。

(253) 正解②:彼は親切な人だった。そのことは後になって私にも分かった。

[解説]この問題は前文全体を受ける非制限用法の as を問う問題です。② as は He was a kind man という内容を受け、as I later discovered で「後に私が気づいたよ

うに」となります。① another、③ such は文を接続できず、④ that は非制限用法で前文全体を受けることができません。as S discover / know / expect = S が気づく・知る・予想するよという用法を覚えましょう。

(254) 正解②:彼は外国人だったが、それは彼のなまりから彼らにも分かった。

[解説]この問題は前の節全体を受ける関係代名詞 as を問う問題です。② as は He was a foreigner という内容全体を受け、as they perceived from his accent で「彼のなまりから彼らが分かったように」となります。① what は先行詞を含む関係代名詞、③ because は理由、④ so は副詞です。as = ～であるように／～から分かるよという非制限用法を確認しましょう。

(255) 正解①:小説家なら当然予想されるように、彼には人々を鋭く観察する能力がある。

[解説]この問題は As might be expected of ～「～なら当然予想されることだが」という定型表現を問う問題です。① As might be expected を入れると、As might be expected of a novelist となり自然な文が完成します。② Judging なら通常 Judging from ～ が必要で、③ As a viewpoint、④ Viewing は文構造・意味ともに適しません。as might be expected of A = A なら当然のことだと覚えましょう。

(256) 正解①:誰にでも弱点がある。＝弱点のない人はいない。

[解説]この問題は関係代名詞 but

の特殊用法を問う問題です。① but は who ~ not の意味を含み、There is no one but has weaknesses. で「弱点を持たない人はいない」となります。結果として「誰にでも弱点がある」という意味です。② who や③ that では否定の意味が加わらず、④ than は比較に用います。no one but ~ = ~しない人はいないという古風な表現を覚えましょう。

(257) 正解①: 誰にでも弱点がある。= 弱点のない人はいない。

[解説]この問題も関係代名詞 but の特殊用法を問う問題です。① but は who does not / that does not に相当し、There is no one but has weaknesses. は「弱点を持たない人はいない」という意味になります。② who と③ that では「弱点を持つ人はいない」という逆の意味になり、④ than は比較を表します。*否定語 + 先行詞 + but ~*では but 自体に否定の意味が含まれます。

(258) 正解②: 地球が丸いことを知らない人はいない。

[解説]この問題は関係代名詞 but = who ~ not の用法を問う問題です。② but を入れると There is no one but knows that the earth is round. となり、「地球が丸いことを知らない人はいない」という意味になります。① as はこの構造では使えず、③ who と④ that では no one の否定をそのまま受けて「知っている人はいない」という意味になります。no one but V = Vしない人はいないを確認しましょう。

(259) 正解①: たとえ病気でも、必要以

上に薬を飲んではいけない。

[解説]この問題は比較級の後ろで用いられる than の関係代名詞的な用法を問う問題です。① than is necessary で「必要である量以上の」という意味になり、than が more medicine を受けて is necessary の主語に相当します。②は語順が誤り、③では it が重複し、④は間接疑問でもないのに倒置されています。*more + 名詞 + than is necessary = 必要以上の~*を覚えましょう。

(260) 正解③: ペットには、必要以上の食べ物を与えるべきではない。

[解説]この問題は more ~ than ... の比較構文を問う問題です。③ than を入れて more food than they need とすると、「彼らが必要とする以上の食べ物」という意味になります。① which と② that では more と対応する比較構文を作れません。④ what は先行詞を含む関係代名詞なので food と併用できません。more A than S need = Sが必要とする以上の A という形を覚えておきましょう。

(261) 正解③: 木下さんが親切にするのは友人だけではない。彼女は助けを必要とする人なら誰でも助ける。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whoever の名詞節用法を問う問題です。③ whoever は anyone who「~する人は誰でも」の意味で、whoever needs her help 全体が helps の目的語になります。① those では後ろに関係代名詞が必要で、② whatever は物・事柄、④ whom は先行詞を必要とします。

whoever=anyone who という基本を確実に覚えましょう。

- (262) 正解③:その映画を見たい人なら誰にでも、そのチケットをあげてかまいません。

[解説]この問題は whoever の格を問う問題です。③ whoever は前置詞 to の後ろにあります。内部の節では wants to see the movie の主語として働くため主格 whoever を用います。④ whomever を選びたくなりますが、格は複合関係詞が内部の節で果たす役割によって決まります。① whatever は物、② whichever は限定された選択を表します。**to whoever wants ~**に注意しましょう。

- (263) 正解③:この CD を欲しがる人なら誰にでもあげなさい。

[解説]この問題も複合関係代名詞 whoever の名詞節用法を問う問題です。③ whoever は anyone who の意味で、内部では wants の主語になります。前置詞 to の後ろだからといって④ whomever にはなりません。① who と② whom は通常先行詞を必要とし、「～する人なら誰でも」という意味も表せません。前置詞の直後でも、内部節の主語なら whoever という点が重要です。

- (264) 正解③:もし彼女が彼の言うことを信じないなら、誰にでも尋ねてみればよい。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whoever「誰でも」を問う問題です。③ whoever は文脈上「彼女が尋ねたい人なら誰でも」という不特定の人を表します。① those は「それらの

人々」ですが後ろに修飾語がなく、② whatever は物・事柄を表します。④ whom は疑問代名詞・関係代名詞としては先行詞や限定された対象が必要で、ここでの「誰でも」という意味にはなりません。whoever = any person who と覚えましょう。

- (265) 正解④:この本を欲しがる人なら誰にでもあげなさい。

[解説]この問題は whoever = anyone who の用法を問う問題です。④ whoever wants it で「それを欲しがる人なら誰でも」という名詞節を作り、前置詞 to の目的語になります。① whom では wants の主語がなく、② anyone と③ someone を使うなら後ろに who wants it が必要です。whoever 一語で「先行詞 anyone + 関係代名詞 who」の働きをすることを確認しましょう。

- (266) 正解①:誰が来ても歓迎されるだろう。／来る人は誰でも歓迎されるだろう。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whoever がそれ自体で主語を含む名詞節を作る用法を問う問題です。① Whoever だけで「来る人は誰でも」という意味を作れるため正解です。② Whoever that comes は whoever と that が重複し、③も同様に that は不要です。④ Whoever comes を入れると問題文の will be welcome と合わせて文の形が崩れます。**Whoever + V ~**で一つの名詞節を作ることを押さえましょう。

- (267) 正解①:あなたは欲しいものを何でも注文してよい。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whatever の名詞節用法を問う問題です。① whatever は anything that「～するものは何でも」の意味で、whatever you want 全体が order の目的語になります。② however は「どんなに・どのように」、③ for which と④ of which は明示された先行詞を必要とします。whatever=anything that と覚え、節内では want の目的語になっていることも確認しましょう。

- (268) 正解②: ジェーンはいつも、姉がするように言うことなら何にでも従う。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whatever を問う問題です。② whatever her sister tells her to do は「姉が彼女にするように言うことは何でも」という意味で、前置詞 with の目的語になります。①・③ whenever は「～するときはいつでも」という時、④ whichever は限られた選択肢の中から「どちらでも・どれでも」を表します。whatever = anything that という意味を確認しましょう。

- (269) 正解④: トムは利己的だ。自分は何をしたいことを何でもできている。

[解説]この問題は whatever = anything that の名詞節用法を問う問題です。④ whatever he wants で「彼がしたいことは何でも」という意味になり、do の目的語として働きます。① however は方法・程度、② whenever は時、③ wherever は場所を表す複合関係副詞です。do whatever S wants = S がしたいことは何でもするという形をひとかたまり

で覚えておきましょう。

- (270) 正解③: 手に入った情報はどんなものでも、できるだけ早く私にください。

[解説]この問題は whatever + 名詞の用法を問う問題です。③ whatever information you get で「あなたが得るどんな情報でも」という意味になります。information は不可算名詞ですが、whatever はそのまま前に置いて名詞を限定できます。① as if は「まるで～のように」、② even if は「たとえ～でも」、④ whenever は「～するときはいつでも」です。whatever + 名詞 = どんな～でもを覚えておきましょう。

- (271) 正解②: あなたがしてくださるどんな援助にも、心から感謝します。

[解説]この問題は whatever + 名詞「どんな～でも」の用法を問う問題です。② whatever help you can give me で「あなたが私に与えられるどんな援助でも」となり、appreciate の目的語になります。① which と④ whose は限定された先行詞が必要で、③ anything の後ろには通常 that you can give me が必要です。*whatever + 名詞 = any + 名詞 + that ~*と考えましょう。

- (272) 正解②: 好きなものをどれでも選びなさい。

[解説]この問題は複合関係代名詞 whichever を問う問題です。② whichever は「限られた範囲の中からどれでも」という意味で、whichever you like 全体が Choose の目的語になります。① whatever は「何でも」と範囲を限定しない表現です。③ whenever は時、

- ④ wherever は場所を表します。whichever = any one which / whichever one と考え、選択肢が意識される場合に用います。
- (273) 正解④:この場合は実際あまり選択の余地がない。より長持ちすると思うほうを取りなさい。
[解説]この問題は whichever + 連鎖構造を問う問題です。④ whichever you think will last longer で「あなたがより長持ちすると思うほう」という意味になります。you think を外すと whichever will last longer となり、whichever が will last の主語です。① it と② that では節を作れず、③ which だけでは選択対象を含みません。whichever = どちらでも・どれでもを押さえます。
- (274) 正解③:どの政党が政権を握っていても、イギリスの外交政策は変わらないのだろうか。
[解説]この問題は whichever + 名詞 の譲歩用法を問う問題です。③ whichever party is in power で「どの政党が政権を握っていようとも」という意味になります。① whoever は人そのものを受け、party という名詞を直接修飾できません。② however は程度・方法、④ wherever は場所を表します。whichever + 名詞 = どの～であってもと覚えましょう。
- (275) 正解④:どちらの決定をしても、私たちは難しい立場に置かれている。
[解説]この問題は譲歩を表す whichever + 名詞 を問う問題です。④ whichever decision we make

で「どちらの決定をしても」という意味になります。① what は「何を・どんなこと」を表しますが、ここでは限られた選択肢の中からの選択が意識されています。② whoever は人、③ where は場所です。whichever + 名詞 + S + V = どの～を S が V してもと覚えましょう。

- (276) 正解①:何が起ころうとも、彼はその仕事を終える決心をしている。
[解説]この問題は複合関係代名詞 whatever の譲歩用法を問う問題です。① whatever happens は no matter what happens と同じで、「何が起ころうとも」という意味になります。② however は形容詞・副詞を伴うのが基本で、③ whenever は「いつ～しても」です。④ no matter だけでは不完全で、後ろに what が必要です。whatever = no matter what と覚えましょう。
- (277) 正解③:何をやるにしても、インドネシアでは物を渡したり受け取ったりするときに左手を使ってはいけません。
[解説]この問題は whatever S do 「何を S がしても」の譲歩用法を問う問題です。③ Whatever you do は No matter what you do と同じ意味になります。① whichever は限定された選択肢を必要とし、② however は「どんなに・どのように」、④ Anything では後ろの you do と接続できません。*Whatever you do, ~ = 何をやるにしても～*は頻出表現です。
- (278) 正解③:コンパスが何を示そうとも、私たちが北へ向かっているとは思えない。

[解説]この問題は譲歩を表す複合関係代名詞 whatever を問う問題です。③ whatever the compass may say で「コンパスが何を示そうとも」という意味になります。whatever は say の目的語として働きながら、節全体で譲歩を表します。① if は条件、② however は程度・方法、④ because は理由です。whatever S may V=S が何を Vしようともという形を確認しましょう。

(279) 正解①:彼が誰であろうとも、私は彼を許すことができない。

[解説]この問題は whoever ~ may be の譲歩用法を問う問題です。

① Whoever he may be は No matter who he may be と同じで、「彼が誰であろうとも」という意味になります。② However は「どんなに」、③ Whatever は「何であろうとも」、④ Whichever は限定された選択肢から「どちらであっても」を表します。whoever=no matter who を覚えましょう。

(280) 正解④:どちらの道を通っても、時間までにはそこに着くだろう。

[解説]この問題は whichever + 名詞 の譲歩用法を問う問題です。④ Whichever route you take で「どの道を選んでも」という意味になります。① No matter を使うなら no matter which route とする必要があります。② That は譲歩を表せず、③ Wherever は「どこへ~しても」という副詞なので route を直接修飾できません。whichever route = どの道でもと覚えましょう。

(281) 正解④:列車が何時に到着しよう

とも、私たちは駅であなたに会います。

[解説]この問題は no matter what + 名詞 の構文を問う問題です。④ no matter what time the train arrives で「列車が何時に到着しようとも」という意味になります。① whenever を使うなら no matter は不要です。② when では no matter when なら可能ですが、直後の time が余ります。③ on も構造に合いません。no matter what time ~ = 何時に~してもを覚えましょう。

(282) 正解②:あなたがどこへ行こうとも、私は一緒に行きます。

[解説]この問題は複合関係副詞 wherever の譲歩用法を問う問題です。② wherever you go は no matter where you go と同じで、「あなたがどこへ行っても」という意味になります。① whatever は物・事柄、③ whichever は限定された選択、④ whoever は人を表します。wherever=no matter where = どこへ[で]~してもと整理しましょう。

(283) 正解①:あなたがどこへ行っても、両親はあなたを支え、愛してくれるだろう。

[解説]この問題は複合関係副詞 wherever を問う問題です。① wherever you go で「あなたがどこへ行っても」という譲歩の意味になります。② whenever は「いつ~しても」、③ however は「どんなに・どのように」、④ whichever は「どちらを選んでも」です。wherever + S + V は場所を表し、no matter where + S + V に書き換えられます。

(284) 正解②: 私たちには、住みたい所ならどこにでも住む権利がある。

[解説] この問題は wherever が場所を表す名詞的なまとまりを作る用法を問う問題です。② wherever we want to で「私たちが住みたい所ならどこでも」という意味になり、live の場所を表します。① which は先行詞が必要で、③ whatever は物・事柄、④ whichever は限定された選択を表します。live wherever S want to = S が望む所ならどこにでも住むと覚えましょう。

(285) 正解①: 都合のよいときなら、いつ来てもかまいません。

[解説] この問題は複合関係副詞 whenever を問う問題です。① whenever it is convenient で「都合のよいときならいつでも」という意味になります。② whichever は「どちらでも」、③ whomever は「誰を～しても」、④ whatever は「何でも」を表します。whenever = at any time when / no matter when で、文脈により「～するときはいつでも」「いつ～しても」を表します。

(286) 正解④: ティムは、5歳の娘がどこかへ行かなければならないときはいつでも付き添う。

[解説] この問題は whenever = every time that の用法を問う問題です。④ whenever she has to go somewhere で「彼女がどこかへ行かなければならないときはいつでも」となります。① whatever は物、② whomever は人、③ whichever は選択を表します。ここでは譲歩よりも時の反復を表しており、whenever =

～するときはいつでもと捉えます。

(287) 正解①: 自由な時間があるときはいつでも、家族に会うようにしている。

[解説] この問題は複合関係副詞 whenever の時を表す用法を問う問題です。① whenever I have free time で「自由な時間があるときはいつでも」となります。② whatever は物・事柄、③ however は方法・程度、④ whichever は選択を表します。whenever S + V = every time S + V と考えると分かりやすいでしょう。

(288) 正解③: 「何時に始めればいいですか」「分かりません。始めたいときにいつでも始めなさい。」

[解説] この問題は複合関係副詞 whenever を問う問題です。③ whenever you want to で「あなたが望むときならいつでも」という意味になります。to の後ろでは begin が省略されています。① however は方法・程度、② whatever は物・事柄、④ wherever は場所を表します。whenever S want to (V) = S が V したいときならいつでもという省略にも注意しましょう。

(289) 正解①: どんなに忙しくても、少なくとも6時間は必ず眠りなさい。

[解説] この問題は however + 形容詞 + S + V の譲歩構文を問う問題です。① However busy you are で No matter how busy you are 「どんなに忙しくても」と同じ意味になります。② Whoever は人、③ Whatever は物、④ Whenever は時を表します。however + 形容詞[副詞] + S + V = どんなに～でもという語順が最重要です。

- (290) 正解②:どんなに速く歩いても、私は彼に追いつけなかった。

[解説]この問題は however + 副詞 + S + V を問う問題です。② However fast I walked で「どんなに速く歩いても」という意味になります。fast は walked を修飾する副詞です。① As を用いる譲歩構文なら Fast as I walked など別の語順が必要で、③ If は条件、④ Though もこの語順では使えません。however fast S V = no matter how fast S V と覚えましょう。

- (291) 正解①:どんなにテストが簡単でも、必ずもう一度答えを確認すべきだ。

[解説]この問題は however + 形容詞 + S + V の正しい語順を問う問題です。① However easy the test is が正解で、「どんなにテストが簡単でも」となります。②のように however の直後に主語を置くことはできません。③・④の whatever は easy の程度を修飾できません。However + 形容詞 + S + V という語順をそのまま定着させましょう。

- (292) 正解②:どんなに難しくても、その新しいコンピューターの操作を習得しなければならない。

[解説]この問題は no matter how + 形容詞 + S + V を問う問題です。② No matter how difficult it may be で「それがどんなに難しくても」という意味になります。① no matter however は同じ譲歩表現を重ねているため不可、③ No how は表現として成立しません。④ No matter だけでは difficult を導けません。no matter how = however を確実に

対応させましょう。

- (293) 正解①:どんなに小さくても、自分だけの部屋があるほうがいい。

[解説]この問題は however + 形容詞 + S + may be の譲歩構文を問う問題です。① however small it may be で「それがどんなに小さくても」となります。② no matter を使うなら no matter how small が必要です。③ even if なら even if it is small、④ whatever は small の程度を修飾できません。however + 形容詞 + S + may be は頻出形です。

- (294) 正解③:朝どんなに忙しくても、私は必ず新聞にざっと目を通すことにしている。

[解説]この問題は no matter how + 形容詞 + S + V を問う問題です。③ No matter how busy I am で「私がどんなに忙しくても」という意味になります。① Although と② Even if を使うなら Although I am busy / Even if I am busy の語順です。④ Whatever は形容詞 busy の程度を修飾できません。no matter how busy S is = however busy S is を覚えましょう。

- (295) 正解①:勉強がときにどんなに大変に思えても、続けなさい。

[解説]この問題は however + 形容詞 + S + V の譲歩用法を問う問題です。① however hard it sometimes seems で「それがときにどんなに難しく思えても」となります。② no matter what の後ろには名詞または不完全な節が必要で、③ whatever と④ whichever は hard の程度を修飾できません。

however hard ~ = no matter how hard ~という書き換えを確認しましょう。

- (296) 正解①:勉強がときにどんなに大変に思えても、続けなさい。

[解説]この問題も however + 形容詞 + S + V を問う問題です。① however hard it sometimes seems が正しく、「それがときにどれほど大変に思えても」という譲歩を表します。② no matter what は no matter how hard とする必要があり、③ so はこの譲歩節を作れません。④ whatever も hard を直接修飾できません。however hard = no matter how hard をセットで覚えておきましょう。

- (297) 正解④:運転手は、どんなに一生懸命やっても車のエンジンをかけることができなかった。

[解説]この問題は no matter how + 形容詞・副詞 + S + V の譲歩構文を問う問題です。④ no matter を入れて no matter how hard he tried とすると、「彼がどんなに一生懸命やっても」という意味になります。① but、② even though を入れると直後の how が不要になり、③ if anything は「どちらかといえば」の意味です。no matter how hard S try = however hard S try と覚えましょう。

- (298) 正解④:写真を撮るためにあなたがしなければならないことは、このボタンを押すことだけです。

[解説]この問題は、先行詞 all の後ろで目的格の関係代名詞が省略される形を問う問題です。④ All you

have to do は All (that) you have to do のことで、「あなたがしなければならないことすべて」という意味になります。①は疑問文のような語順になり、②・③も英語として正しい語順ではありません。All (that) S have to do is (to) V = S は V しさえすればよいは重要構文です。

- (299) 正解②:その試験に合格するためにあなたがしなければならないことは、このノートを注意深く復習することだけです。

[解説]この問題は all + 関係代名詞の省略を問う問題です。② you have to do を入れると All (that) you have to do to pass the test is ~ となります。③ what you have to do は誤りで、what 自体が the thing(s) that の意味を含むため、先行詞 all と重複します。①は doing が不適切で、④ which もこの all の直後では適しません。all that ~ / what ~ の重複を避けることが重要です。

- (300) 正解①:あなたが長い旅の間に書いたものはすべて、後に一冊の本として出版された。

[解説]この問題は先行詞 all の後ろの目的格関係代名詞の省略を問う問題です。① you wrote を入れると All (that) you wrote during your long journey となり、「長い旅の間にあなたが書いたものすべて」という意味になります。②では wrote の目的語として all と it が重複し、③ who は人を先行詞とします。④も that と it が目的語として重複します。all (that) S + V = S が V するも

のすべてと覚えましょう。

- (301) 正解③: その事故について生徒たちが私に話したことは、すべて本当だと分かった。

[解説]この問題も all + 目的格関係代名詞の省略を問う問題です。③ the students told me を入れると All (that) the students told me about the accident となり、「事故について生徒たちが私に話したことすべて」という意味になります。① All what ～ は不可で、all と what が先行詞の働きを重複させます。②では all と it、④では all・which・it が重複します。**All (that) S + V ～ = What S + V ～**という書き換えまで押さえておきましょう。